

環境レポート 2011

環境にイイこと、

プラス。



700周年

APITA

PIAGO
ピアゴ



会社概要

| | |
|-----------|--|
| ●本社 | 〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地 |
| ●設立 | 1950年3月13日 |
| ●資本金 | 101億2,925万円(2011年2月現在) |
| ●代表者 | 前村 哲路 |
| ●事業内容 | 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア |
| ●売上構成 | 衣料品15%・食料品66%・住居関連品17%・その他2%(2011年2月期実績) |
| ●決算期 | 2月20日(年1回) / 東京・名古屋(各1部)の各市場に上場 |
| ●店舗数 | 1府19県下に227店舗(2011年7月末現在) |
| ●従業員数 | 33,213名(2011年2月20日現在) |
| ●売上高 | 8,130億円(2011年2月期実績) |
| ●主要取引銀行 | 三菱東京UFJ銀行、住友信託銀行 |
| ●HPアドレス | http://www.uny.co.jp |
| ●グループ連結売上 | 1兆1,128億円(2011年2月期実績) |
| ●主なグループ企業 | (株)サークルKサンクス、(株)99(キューキュー)イチバ、(株)さが美、(株)パレモ、(株)モリエ、(株)鈴丹、 UNY [HK] CO.,LTD.、(株)ユーライフ、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、 (株)ユニコム、(株)マイサポート、(株)ユニフード |



事業所

※2011年7月末現在

中京エリア

■名古屋市

ヒルズウォーク徳重ガーデンズ(ピアゴラ フーズコア徳重店)、アビタ新守山店、アビタ千代田橋店、アビタ東海通店、アビタ名古屋北店、アビタ名古屋南店、アビタ鳴海店、アビタ緑店、アビタ港店、アビタ味鏡店、ピアゴアラタマ店、ピアゴ榎田店、ピアゴ西城店、ピアゴ桜山店、ピアゴ鹿山店、ピアゴ清水山店、ピアゴ中村店、ピアゴ平針店、ピアゴ守山店、ピアゴラ フーズコア萱場店、ピアゴラ フーズコア正保店、ピアゴラ フーズコア柴田店、ピアゴラ フーズコア神野店、ピアゴラ フーズコア滝ノ水店、ピアゴラ フーズコア黒川店

■愛知県

エアポートウォーク名古屋(アビタ名古屋空港店)、リーフウォーク稲沢(アビタ稲沢東店)、アビタ阿久比店、ユーホーム阿久比店、アビタ安城南店、アビター宮店、アビタ稲沢店、ユーホーム稲沢店、アビタ大口店、アビタ大府店、アビタ岡崎北店、アビタ蒲郡店、アビタ刈谷店、アビタ木曽川店、アビタ高蔵寺店、アビタ江南西店、アビタ小牧店、アビタ瀬戸店、アビタ知立店、アビタ東海荒尾店、アビタ桃花台店、アビタ豊田元町店、アビタ長久手店、アビタ向山店、アビタ赤池店、ピアゴ阿久比北店、ピアゴ安城店、ピアゴ井ヶ谷店、ピアゴ岩倉店、ピアゴ印場店、ピアゴ大清水店、ピアゴ大治店、ピアゴ乙川店、ピアゴ香久山店、ピアゴ上和田店、ピアゴ気噴店、ピアゴ清洲店、ピアゴ吉良店、ピアゴ黒笹店、ピアゴ国府店、ピアゴ幸田店、ピアゴ江南店、ピアゴ佐屋店、ピアゴ篠木店、ピアゴ基目寺店、ピアゴ十四山店、ピアゴ勝幡店、ピアゴ新城店、ピアゴ武豊店、ピアゴ知立店、ピアゴ伝法寺店、ピアゴ東栄店、ピアゴ常滑店、ピアゴ豊明店、ピアゴ中切店、ピアゴ長久手南店、ピアゴ西尾駅東店、ピアゴ西春店、ピアゴ半田店、ピアゴ東刈谷店、ピアゴ尾西店、ピアゴ菱野店、ピアゴ福釜店、ピアゴ碧南店、ピアゴ碧南東店、ピアゴ洞店、ピアゴ布袋店、ピアゴ妙興寺店、ピアゴ八剣店、ピアゴ矢作店、ピアゴ大和店、ピアゴ豊川店、ピアゴラ フーズコア半田清城店、ピアゴラ フーズコア三河安城店、ユーホーム矢作店、ユーホーム安城店

■岐阜県

アクアウォーク大垣(アビタ大垣店)、ラスバ御嵩(アビタ御嵩店)、アビタ各務原店、ユーホーム各務原店、アビタ北方店、アビタ岐阜店、アビタ中津川店、アビタ飛騨高山店、アビタ美濃加茂店、ピアゴ浅草店、ピアゴ鞠店、ピアゴ恵那店、ピアゴ各務原店、ピアゴ笠松店、ピアゴ川辺店、ピアゴ関店、ピアゴ多治見店、ピアゴ長良店、ピアゴ穂積店、ピアゴ瑞浪店

■三重県

アビタ伊賀上野店、アビタ桑名店、アビタ鈴鹿店、アビタ名張店、アビタ松阪三雲店、ユーホーム松阪三雲店、アビタ四日市店、ピアゴ赤尾店、ピアゴ阿倉川店、ピアゴ嬉野店、ピアゴ上地店、ピアゴ保田店、ピアゴ孤野店、ピアゴ多度店、ピアゴ東員店、ピアゴ星川店

■長野県

アビタ飯田店、アビタ伊那店、アビタ岡谷店、アビタ高森店、ピアゴ飯田駅前店

■滋賀県

ピアゴ一里山店、ピアゴ今路店、ピアゴ近江八幡店、ピアゴ豊郷店、ピアゴ松原店、ピアゴ水口店

■京都府

アビタ精華台店

■奈良県

アビタ大和郡山店、ユーホーム大和郡山店

北陸エリア

■石川県

アビタ金沢店、アビタ松任店、ユーホーム松任店、ピアゴ七尾店、ピアゴ金沢ベイ店

■富山県

アビタ魚津店、アビタ黒部店、アビタ砺波店、アビタ富山店、アビタ富山東店、ピアゴ小矢部店、ピアゴ富山西町店

■福井県

アビタ敦賀店、アビタ福井店、アビタ福井大和田店、ピアゴ丸岡店

関東エリア

■神奈川県

アビタ金沢文庫店、アビタ戸塚店、アビタ長津田店、アビタ日吉店、ピアゴイセザキ店、ピアゴ大口店、ピアゴ弘明寺店、ピアゴ座間店、ピアゴ大雄山店、ピアゴ中山店

■埼玉県

ピオニウォーク東松山(アビタ東松山店)、アビタ岩槻店、アビタ吹上店、アビタ本庄店、ピアゴ大桑店、ピアゴ川本店

■群馬県

けやきウォーク前橋(アビタ前橋店)、アビタ伊勢崎店、アビタ笠懸店、アビタ高崎店、アビタ館林店、ピアゴ藤岡店

■茨城県

アビタ石下店、アビタ佐原東店、アビタ守谷店

■千葉県

アビタ市原店、アビタ木更津店、アビタ君津店

■栃木県

アビタ足利店、アビタ宇都宮店

■新潟県

リバーサイド千秋(アビタ長岡店)、アビタ新潟亀田店、アビタ新潟西店

■福島県

アビタ会津若松店

山静エリア

■静岡県

アビタウォーク浜北(アビタ浜北店)、アビタ伊東店、アビタ大仁店、アビタ掛川店、アビタ静岡店、アビタ島田店、アビタ初生店、アビタ藤枝店、ピアゴ磐田店、ピアゴ於呂店、ピアゴ香貫店、ピアゴ上岡田店、ピアゴ上島店、ピアゴ清水高橋店、ピアゴ大覚寺店、ピアゴ中里店、ピアゴ榛原店、ピアゴ浜松泉町店、ピアゴ袋井店、ピアゴ富士中央店、ピアゴ富士宮店、ピアゴ森店、ピアゴラ フーズコア中田店

■山梨県

ラザウォーク甲斐双葉(アビタ双葉店)、アビタ石和店、アビタ田富店

店舗紹介

地域の中でライフスタイルを 多面的にカバーする、ユニーの各業態

ユニー株式会社は、衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、関東から北陸・東海地区に227店舗（2011年7月末現在）を展開するチェーンストアです。その代表であるモール型ショッピングセンターをはじめ、豊かで楽しい生活提案を取り入れた「日常生活向上店」を目指すアピタ店舗、毎日楽しく買い物ができる「日常生活便利店」を目指すピアゴ店舗など、地域の中でライフスタイルを多面的にカバーできるよう、さまざまなタイプの店づくりに取り組んでいます。また2008年8月21日にはスーパーマーケット事業を柱とする株式会社ユースストアと合併し、スーパーマーケット部門のより一層の充実に努めています。

●モール型ショッピングセンター

数多くの専門店街とエンターテインメントを兼ね備えた広域型複合ショッピングセンター。ファッション・ライフスタイル・グルメなどトレンドを意識したテナント誘致で、地域交流・活性化を見据えた「街づくり」を進めています。



●アピタ店舗

ヤングマインドで日常生活にこだわりを持つお客様をメインターゲットに、立地やマーケット特性に合わせた店づくりを行っています。



●ラスバ

専門店でウェイトを置き、「ミニモール」タイプとしてトレンド感あふれるショップが魅力。また、ライフスタイルにこだわりを持つお客様をメインターゲットに、立地やマーケット特性に合わせた品揃えや店づくりを行っています。



●ピアゴ店舗

「日常生活便利店」として、ファッションから食品まで地域密着型の品揃えとサービスが特徴の総合小売店です。



●ピアゴ ラーフーズコア

「時代にフィットしたこだわり志向の食材」も提供する都市型小型食品スーパー。街の生活に密着した、「食」のライフスタイルを発信しています。



Contents

| | |
|---------------|----|
| 会社概要・事業所・店舗紹介 | 1 |
| 社長インタビュー | 3 |
| 環境理念・環境方針 | 5 |
| エコ・ファーストの約束 | 7 |
| 環境計画の概要 | 9 |
| 環境マネジメント | 11 |



環境にイイこと、プラス。

| | |
|----------------|----|
| 廃棄物を削減する取り組み | 13 |
| 環境にやさしい容器包装 | 15 |
| 食品廃棄物リサイクルシステム | 20 |
| 低炭素社会の構築 | 25 |
| 環境負荷 | 29 |
| 生物多様性 | 31 |
| 子供環境学習 | 33 |



社会・地域にイイこと、プラス。

| | |
|---------------|----|
| ユニーの食育について | 37 |
| ピック・アップ・エコストア | 39 |
| 店舗での取り組み | 41 |
| お客様の声 | 43 |
| 社会貢献・地域貢献 | 44 |



従業員にイイこと、プラス。

| | |
|--------------|----|
| 働きやすい職場環境づくり | 49 |
| 環境学習 | 50 |

対象範囲

ユニー株式会社227店舗及び本社事務所（各エリア事務所含む）
※旧ユニー（株）と旧（株）ユースストアは、2008年8月21日に合併しました。この環境レポートに記載している内容の一部は旧ユニー（株）に関するものみの場合もあります。

対象読者

ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、店舗の近隣住民の方々・お取引先・従業員など、当社にかかわる全ての皆様を対象とします。

対象期間

2010年度（2010年2月21日～2011年2月20日）
※一部上記対象期間以外の活動を記載しています。



自然との調和を大切に

「未来の子供達に美しい自然を残したい」ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

時代が求める環境・社会貢献を通して、 次の100年へ、持続可能な企業を目指します。

～ 100年のありがとう そして 100年後の地球を守るために ～

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、これまでわが国が培ってきた安全や信頼といった仕組みを根底から揺るがすと同時に、あらためて地域社会との絆や資源の大切さを思い知らせることとなりました。そんななか、創業100周年を迎えたユニーが次世代に向かって取り組むべき環境・社会貢献について、百瀬則子環境社会貢献部長が前村哲路社長にインタビューしました。

東日本大震災で得た 100年目の教訓

●百瀬 ユニーは今年、創業100周年を迎えました。前村社長は常々、100年目のユニーと環境や地域社会への貢献活動は非常に密接なつながりがあると言っています。

●前村 要は、「なぜ、ユニーが100年も持つ企業でありえたか?」ということです。私はその理由を「①お客さま満足を第一にする」「②地域社会への貢献」「③社員を大事にする」「④独自の技術(他社にない商品力・販売力)」の4つだと考えています。何か困難なことに直面したとき、この4つを拠り所にすることが大事で、そこからおのずと解決への道が開かれると考えています。なかでも2つ目の「地域社会への貢献」は非常に重要な要素です。

小売業というのは地域産業であり、地域社会への貢献なくしては成り立ちません。常に社会に対してその存在価値を示し続けることによって、持続可能な企業となれるのです。ユニーが今、エコ・ファースト企業として「未来の子供たちに美しい自然を残したい」をテーマに、環境をメインとした地域社会への貢献に率先して取り組んでいるのはその最たるものです。

●百瀬 そんななか、3月11日に東日本大震災が発生しました。震災にあった地域でもユニーは営業していますが、被災地支援としてユニーの取り組みを振り返りたいと思います。

●前村 当社は関東地区に34店舗展開していますが、うち4店舗が損壊するなどの被害を蒙りました。しかし幸いなことに人的被害はなく、その意味においては避難誘導が

迅速にできたものと社員に感謝し、誘導に従ってくださったお客さまに感謝しています。

●百瀬 地震発生直後、非常に早い段階で本社と関東事務所に「災害対策本部」が立ち上がりましたね。

●前村 まず行ったことは、各店舗の被害



状況の収集と生活必需品の調達です。トラック12台を用意し、福島県いわき市と宮城県仙台市そして岩手県に、被災地救援としてその日のうちに緊急支援物資を送りました。続けて義援金を募りましたが、2週間ちょっとの間にグループ全体で3億5,000万円集まり、日本赤十字社を通して寄付しました。

●百瀬 また、被災地では店舗損傷や商品調達経路を閉ざされ、休業を余儀なくされた小売店も多く、営業できたスーパーやコン

ビニでも物資不足に陥りました。

●前村 当社でも3店舗が震災翌日に営業できず、水などの必要物資だけを店頭で販売しました。関東を拠点とする小売企業は、商品の調達が困難だったと聞いています。ユニーは当社が中京圏ですから、こちらから送ることができ、被災地域にある店舗ではうちが一番物が揃っていたといっても良いでしょう。そういう点でもお客さまからも非常に頼りにされ感謝されましたね。

●百瀬 また、義援金の寄付だけではなく、従業員が自ら被災地支援の行動を起こそうと、従業員の家庭で眠っているタオルや毛布などの贈答品、衣類などを集めました。それを会社が用意した大人用紙オムツやマスクと一緒に、前からおつきあいのあった車椅子センター「AJU自立の家」や「認知症の人と家族の会」を通して、支援物資を必要とする現地のNPOに直接送り込みました。それらを避難所に入らず自宅で避難している方々にお送りしたのです。これが感謝状をいただけるほど、喜んでいただいたようです。

●前村 結構集まったと聞いていますが、どのくらい集まったのでしょうか?

●百瀬 段ボールで348箱。11トン車2台分になりました。認知症の方や車イスの方の場合、避難所暮らしは難しく自宅にとどまる方が多かったそうです。避難所ではタオルや服はもういらぬとの報道がありましたが、今回回らずとも必要な方に必要なものをピンポイントでお送りできたことに大きな意味がありました。

●前村 小売業の役割というのは、お客さまに必要なものを調達してお届けするという、本当にシンプルなこと。しかしこれがちゃんとできていることが大きな社会貢献なのです。

●百瀬 近い将来、東海・東南海地震が必ず起こるといわれていますが、今回の震災で多くの教訓を得ましたね。

●前村 小売業として一番重要なのは情報と物流。それから必要な物資を輸送する体制を整えておくこと。復旧体制と従業員の援助体制の確立、従業員の地震対応ガイドラインの改訂など、対策と対応の見直しを今一度、徹底的に行います。そして、日頃から地域で頼りにされることで、災害時や緊急時に喜ばれる活動ができると思うのです。

エコ・ファースト企業としての果敢なトライ

●百瀬 震災後は今まで以上に節電が要求されています。当社もエコ・ファースト企業として節電に努めていますが、お客様への「節電ライフ」も呼び掛けています。

●前村 5月18日には「エコ・ファースト2011年夏の節電の約束」をエコ・ファースト企業24社と一緒に、環境大臣と交わしました。これは7月～9月の最大使用電力15%削減を目指すものです。特にユニーはお客様の節電意識の醸成も小売業としての大切な役割だと考えています。震災後いち早く「節電ライフ」のコーナーを設置し、節電の方法や節電対応商品などを紹介したカタログをお客さまに配りました。

●百瀬 カタログは10万部つくりましたが、想像以上の早さでなくなりました(笑)。環境省にも持参しましたが、大臣にも興味をもっていただけたようです。これをきっかけに、消費者の商品の選択や電気の使い方は変わるでしょうか？

●前村 変わると思います。すでに節電に役立つ商品は前年比の200%～300%で売れています。こういう商品を充実させて需要喚起につなげられればと思います。

●百瀬 「エコ・ファースト企業」ユニーでは、低炭素社会を目指したCO₂削減効果の高いエコストアを建設しています。2011年秋には愛知県蟹江町に「食品スーパー」のモデルストアがオープンします。

●前村 ピアゴ蟹江店、1977年にユーストアの1号店としてオープンしました。店のコンセプトはローコスト経営でした。店舗の建設費を安くする分、商品も安くしましょう。その店舗を今回は「エコストア」をテーマに34年ぶりに建て替えることにしました。省電力、CO₂削減は3～4割を目指しており、自然採光、太陽光発電、壁面緑化、地熱利用、そしてLED電球の全面使用など、現在

効果があるといわれるものをかなり採用しました。

●百瀬 ピアゴ蟹江店での取り組みは、2020年までにCO₂を25%削減する「チャレンジ25」達成に向けて、今後何を導入していくかの実験店舗でもあります。この店舗で実際に効果のあったことは次の店でも導入していきます。これまではエコストアを目指して従業員とお客さまと一緒に、レジ袋を使わないお買い物や使用済み容器包装の回収リサイクル、店舗から出るゴミのリサイクルといった「循環型社会」への取り組みを一生懸命やってきました。そこにCO₂発生抑制に効果のある設備も加わって、持続可能な未来型店舗が船出するわけです。

●前村 今の子供たちが大人になった時にも、環境に優しく地域社会に貢献している店づくり。これをお客さまにも見ていただき、どこをどう工夫したかを知っていただくことも社会貢献の一つかな。

●百瀬 目に見えるというのは大事ですね。例えば店頭で、消費電力の数値や取り組み状況の案内を設置して、見て興味をもってもらえるようにしたいですね。

●前村 それ、いいですね。来年は中国出店も控えています。中国でもやはり「エコ・ファースト企業」として率先して取り組みたいね。これも地域社会への貢献ですかね。

サステナブル企業として社会貢献を

●百瀬 さらに社会貢献活動でいうと、WFP(国連世界食料計画)協会参加企業として、ユニー全店で毎月第一日曜日に、また本社や地区事務所では店長会議や大きな会合がある時などに「ポケットの中のワンコインを寄付して、アフリカやアジアの子供たちに学校給食を食べてもらおう」という活動をしています。すでに4年目です。また、授産施設の皆さんがつくるワインやリデザインプロジェクト(p47)にも取り組んでいます。

●前村 多治見の修道院にある授産施設で、障がいの方がブドウづくりから始めてワインをつくっているわけですが、これがすごくおいしい。ユニーではチャリティーという形だけでなく、自分の労働で得た賃金をもらう喜びを知ってもらうことで自立支援のお役に立てればと販売させていただいています。

●百瀬 またリデザインプロジェクトは、愛知県尾張地方の繊維産業で不要となって廃

棄される生地を寄付してもらい、授産所で縫製した製品を販売支援するものです。デザインを服飾の専門学校に学生さんに依頼し、未来のデザイナー達の応援もしています。こうした製品は慈善目的のチャリティーとしてではなく、ユニー商品の品質基準をクリアし、センスの良い製品づくりのために、商品開発や品質管理は通常の商品と同じ過程を経ました。その結果、使いやすくデザイン性にも優れているとして『日経デザイン』が取り上げていただきました。これは小売業本来の事業の中で、環境・福祉・教育面で貢献できたと、意義を感じています。でも、一番うれしかったのは、授産所の皆さんに冬のボーナスを出すことができたことと喜んでいただいたことです。頑張ったことへの報酬は次の頑張りにつなげられると思いました。

●百瀬 最後に、皆さんへ社長からのひとことを。

●前村 ユニーは、すでに、次の100年に向かう段階に入っています。だからこそ、もう一度、小売業としてのユニーが事業の業績を向上させるだけではなく、地球環境を守り、企業としての社会貢献を果たし、地域から信頼される企業としての付加価値を高め、それをお客さまに評価していただける事業活動に反映させる。立ち止まっていたのは衰退しかありません。常に企業価値を高めていることを行動で示し、その評価を受けとめさらに向上を目指すことで、持続可能な企業になれる。そのことを従業員一人ひとりが心に留め、前へ進めるユニーでありたいですね。



代表取締役社長 前村哲路(左)、
環境社会貢献部長 百瀬則子(右)



東日本大震災復旧支援活動に対して
社会福祉法人東北福祉会より感謝状授与

環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
環境に優しい循環型社会実現のために、ユニーは企業活動を通じて貢献します。

環境方針

ユニー株式会社は

- 1 総合小売業として環境負荷の少ない安心安全な商品及びサービスの提供に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、「環境活動」「環境教育」を通じて、汚染の予防及び継続的な改善に努めます。
- 3 環境側面に関連して適用可能な環境に関連する法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守し、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境に優しい社会の実現に努めます。
- 4 環境目的・環境目標を設定し、限りある資源を大切にするために、省資源・省エネルギーに取り組み、廃棄物の排出抑制、リサイクルを推進します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、当社で働く全従業員並びに関係する人々に周知し、広く一般に開示します。

2007年3月21日

ユニー株式会社
代表取締役社長

前村哲路





持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、
人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、
この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



店舗の商品ケース
(消灯)

低炭素社会

CO₂など温室効果ガス
発生抑制を目指す社会

- 化石燃料の使用削減
- エネルギーの節約
- カーボンフットプリントの少ない商品
- バイオマスの利活用

- リデュース…コピー用紙使用削減
- リユース…マイバッグキャンペーン
- リサイクル…リサイクルボックス



リサイクル
ステーション

循環型社会

限りある資源を大切に、
3Rを実践する社会

持続可能な社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会



エコ野菜

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。
10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？



エコ・ファーストの約束

ユニーは2008年に、環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わし、総合小売業界で初の「エコ・ファースト企業」に認定されました。これは、業界の環境活動のトップランナー企業がさらに地球環境保全を推進し、持続可能な社会を構築するために努めるという約束です。

エコ・ファースト制度

「エコ・ファースト制度」は、環境省が業界のトップランナー企業の環境保全に関する行動を促進するため、企業が自ら目標を決め、環境大臣に約束するものです。ユニーは2008年に、食品リサイクルに関するトップランナーとして、業界唯一エコ・ファースト企業として認定されました。現在では各業界から選ばれた環境活動のトップランナー38社が持続可能な社会の実現を目指し活動しています。



エコ・ファースト・マーク

2011年夏の節電に関するエコ・ファーストの約束

2011年3月に起きた東日本大地震で福島原子力発電所事故により、関東・東北の電力量が低下しています。5月18日に環境省にエコ・ファースト企業28社が集まり、夏のピーク時の電力使用量を抑えるために、節電の目標を環境大臣と交わしました。ユニーは、前村社長が「お客様と一緒に進める節電活動」の啓発パンフレットを示しながら大臣に発表しました。



エコ・ファースト企業と大臣



パンフレットを示しながら発表する前村社長

エコ・ファーストの約束の進捗状況

| | | | |
|---|--|--------------------------------------|-----------|
| 1 食品リサイクルを 適正かつ積極的に 推進します | ● 食品廃棄物発生抑制の取り組み (食品売上高1万円あたりの発生量を2012年度までに2007年度と比べ10%削減) | ▶ 19%削減 | p20 参照 |
| | ● 食品循環資源のリサイクルの取り組み (再生利用等実施率を2012年度までに60%達成) | ▶ 48.9% (食品リサイクル法定報告数値は59.0%) | p20 参照 |
| | ● 食品循環資源を活用した食品リサイクルループを全県に拡大 (地域循環を目指し、各地域での食品リサイクルループの構築を図る) | ▶ 40期中に3件が認定済み 富山県・京都府・岐阜県で申請中 | p22 参照 |
| | ● 環境学習・農業体験を全店舗で実施 (循環型社会について学び持続可能な社会を目指す) | ▶ ●エコロお店探検隊 / 71回 ●農業体験 / 4回 | p33 参照 |
| 2 その他循環型社会の 形成に向けた取組を お客様と一緒に 積極的に推進します | ● 容器包装廃棄物の発生抑制 (レジ袋辞退率を2012年までに60%達成) | ▶ レジ袋辞退率 72.3% | p15 参照 |
| | ● 使用済み容器包装の店頭回収とリサイクル推進 (回収量・種類・取り扱い店舗の拡大を図る) | ▶ リサイクルボックス回収実績 13.2%向上 (2008年度比) | p17 参照 |
| | ● 商品搬入時の段ボールを削減し省資源を推進 (商品搬入時の段ボールを通い箱・クレートに替え使用量を削減する) | ▶ 12.5%削減 (2008年度比) | p14 参照 |
| 3 地球温暖化の 防止に向けた取組を 積極的に推進します | ● 地球温暖化防止を目指したライフスタイルの提供 (消費者を含む第三者審査委員会の審査に通った環境配慮商品を「ecolon」ブランドとして販売) | | p27 参照 |
| | ● 省エネ活動の推進 (改善活動の一環で省エネ省資源活動を全店舗で実践) | | p30 参照 |
| | ● 「エコストア」を建設し省エネを推進してCO ₂ の発生抑制を図る (照明や空調設備などをエネルギー使用量の少ないものに転換) | | p39 参照 |



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取組～

平成20年4月21日

環境大臣 鴨下 一郎 殿

ユニー株式会社
代表取締役社長

前村 哲路

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、環境負荷の軽減を通じ積極的に社会貢献するため、以下の取組を進めてまいります。

1 食品リサイクルを適正かつ積極的に推進します。

- 食品廃棄物等の発生抑制の取組として、2012年度までに、食品売上高当たりの食品廃棄物等の発生量を2007年度と比べ10%削減します。
- 食品リサイクル法に基づき、食品循環資源のリサイクルの取組を2012年度までに、全店舗において展開し、会社全体として2012年度に再生利用等実施率60%を達成します。
- 再生利用事業計画認定制度を活用して、当社が排出した食品循環資源を再生利用することを通じて得られる農畜水産物を、再び当社において販売する食品リサイクルループを、地元のリサイクル業者や農業者等と連携し、地産地消の取組となるよう配慮しつつ、2012年度までに、当社が店舗展開する18県の全地域に拡大します。
- 消費者や次世代を担う子どもたちに対して、環境配慮に係る普及啓発を積極的に推進するため、食品リサイクルループに参画する農場での収穫体験ツアーを実施する等、2012年度までに全店舗において年1回以上の環境学習会を実施します。

2 その他循環型社会の形成に向けた取組をお客様と一緒に積極的に推進します。

- 容器包装廃棄物の発生抑制の取組として、2012年までに会社全体として、レジ袋の辞退率60%を達成します。
- 地方自治体と協力しながら、お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を店頭回収し、限りある資源を有効に循環させます。
- 配送業者と連携し、配送時の梱包材を通い箱に転換することにより、2012年度までに、段ボールの廃棄物排出量を2007年度と比べ10%削減します。

3 地球温暖化の防止に向けた取組を積極的に推進します。

- 環境配慮商品やサービスを、消費者を含む第三者機関による検討を行って積極的に開発し、その販売拡大を図るとともに、それらの情報を提供することを通じ、地球温暖化防止を目指したライフスタイルの提供を推進します。
- 事務所内はもとより、店舗においても、お客様の理解を得ながら空調温度設定による省エネ化を推進します。
- 2012年度までに全ての店舗における照明器具を、通常の蛍光灯より少ない電力で同等の照度を保つ「Hf蛍光灯」へ転換するとともに、看板の照明を電力消費量の少ないLED照明に転換することにより、店舗における電力使用量を削減します。

ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。



環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し低炭素社会を実現するために、環境方針に基づき、具体的な環境目的・目標数値を設定して取り組んでいます。さらにエコ・ファースト企業として継続的な環境保全活動を行っています。現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「未来の子供達に美しい自然を残したい」を実現していきます。

環境計画

| 環境方針 | 取り組み項目 | 2010年度目標 | 2010年度結果 | 評価 | 2011年度目標 |
|------------------|---|---|---|----|--|
| 環境マネジメントシステムの構築 | ●ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築 | ●「エコ・ファーストの約束」を環境実施計画の目的目標にする | ●「エコ・ファーストの約束」を環境実施計画とし、担当部署を特定 | ○ | ●「エコ・ファーストの約束」の更新に伴い、実施計画を見直す |
| | | ●環境負荷低減について目標値を設定し、毎月記録と結果を本社に報告する。目標値未達成店舗は原因を究明し対策を立てる | ●エネルギー・廃棄物排出状況・レジ袋削減・排水水質管理・リサイクルなどの管理システムにより、目標管理を実施 | △ | ●環境負荷低減について目標値を設定し、毎月記録と結果を本社に報告する。目標達成のためのPDCAを確立する |
| エコストアの実現 | ●省エネ設備によるエネルギー削減 ●環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供する | ●新規開店店舗および、既存店舗への省エネ機器導入計画を立てる | ●モール型大型店舗の設備に省エネ機器を導入し効果を測定 | ○ | ●新規開店店舗および既存店舗への省エネ機器導入計画に従い、順次実施する |
| | | ●環境配慮型PB商品ecolonの開発・販売を拡大し、低炭素型ライフスタイルをお客様と一緒に推進する | ●アビタ千代田橋店で消費者サポーターチーム「リサーチャーズクラブ」がecolonの開発・販促に参加 ●低炭素型ライフスタイルをお客様と一緒に推進する「リサーチャーズクラブ」をモデル店舗（アビタ千代田橋）で実施 | ○ | ●環境配慮型PB商品ecolonの開発、販売を拡大する（イズミヤ、フジとも協働する） ●「リサーチャーズクラブ」の活動を継続拡大し、消費者目線の環境配慮型商品の開発・販売を進める |
| 環境負荷の低減 | ●省エネへの取り組み | ●CO2を原単位で1%削減する | ●前年比 1.6%削減 | ○ | ●CO2を原単位で1%削減する |
| | | ●全店での展開を図る | ●全店で省エネ委員会を開催 | ○ | ●全店での展開を図る |
| | ●物流システムの見直し | ●使用エネルギーを1%削減する | ●電気使用量 1,082,131kwh (100%) ●ガス使用量 26,316千m ³ (108.1%) ●石油使用量 9,411千ℓ (93.5%) | × | ●使用エネルギーを1%削減する |
| | | ●物流の合理化による環境負荷低減を図る | ●輸送距離・量・エネルギー使用量いずれも削減 | ○ | ●物流の合理化による環境負荷低減を図る |
| | ●包装資材の使用削減 | ●段ボール 5%削減 | ●前年比 1.7%削減 | × | ●段ボール 5%削減 |
| | | ●容器包装の規格・素材の見直しを図る | ●バイオマスプラスチック製容器の店頭回収・再生製品を作製 | ○ | ●容器包装の規格、素材の見直しを図る（有料レジ袋にバイオマスプラスチック製品を採用する） |
| 廃棄物の適正処理とリサイクル推進 | ●廃棄物排出削減 | ●包装資材使用削減 5% | ●レジ袋 964t (93.7%) △6.3% ●包装紙 182t (92.4%) △7.6% ●紙袋 208t (87.8%) △12.2% | ○ | ●包装資材使用削減 5% |
| | | ●関東関西地区での実施拡大を図る | ●食品取扱 35店舗中5店舗で実施 (14.3%) ●レジ袋配布店舗 22.8%、有料化店舗 88.7%、全社換算…72.3% | × | ●中京地区での完全実施を図る |
| | ●食品リサイクル推進 | ●レジ袋辞退率 75% | ●廃棄物総排出量 3.0%削減 ●廃棄物処理場・リサイクル現場を確認 | × | ●廃棄物排出総量 前年比 3%削減 |
| | | ●富山県、石川県、千葉県、山梨県、埼玉県でリサイクルループを確立 | ●神奈川県のリサイクルループの再生利用事業計画が認定され、千葉県・三重県・富山県を申請済 ●愛知県ヒラテ産業のリサイクルループ、安城市・岡崎市店舗も参加、DIDIに大口町参加 | △ | ●千葉県・富山県・埼玉県・石川県・京都府・奈良県・長野県・岐阜県のリサイクルループの再生利用事業計画の認定 |
| | ●店頭容器包装回収の推進 | ●リサイクル率 45% ●発生抑制 5% ●再生利用等実施率 50% | ●リサイクル率 48.9% ●発生抑制 △8.6% ●再生利用等実施率 59.0% | ○ | ●リサイクル率 50% ●発生抑制 5% ●再生利用等実施率 55% |
| | | ●リサイクルボックスの回収実績5%向上 | ●牛乳パック 621,980kg (97.87%) ●トレイ 321,549kg (96.33%) ●アルミ缶 521,590kg (109.97%) ●ペットボトル 1,755,475kg (108.37%) ●リサイクルボックス回収実績 5.1%向上 | △ | ●リサイクルボックスの回収実績5%向上 |
| 環境情報の開示と環境保全活動 | ●環境情報の開示 | ●リサイクル実績向上 3% ●リサイクル製品生産拡大 ●リサイクル製品（再生レジ袋）の使用拡大 | ●全店舗から回収 ●リサイクル製品（定規）作成 ●店頭回収35店舗で実施 | ○ | ●リサイクル実績向上 3% ●リサイクル製品生産拡大 ●リサイクル製品（再生レジ袋）の使用拡大 |
| | | ●啓発用などのDVD作成 ●売り場での環境配慮商品の情報開示 ●店舗での情報開示推進 | ●生物多様性DVD作成 ●eco:lonなどの情報を掲載 ●環境掲示板の設置を標準化 | ○ | ●啓発用などのDVD作成（従業員教育用） ●売り場での環境配慮商品の情報開示 ●店舗での情報開示推進 |
| | ●環境保全活動 | ●COP10関連事業に参加 ●全店でのクリーンキャンペーン実施 | ●COP10協賛事業を実施 ●全店実施 | ○ | ●創業100周年ユニーグループ事業実施 ●全店でのクリーンキャンペーン実施 |
| | | ●従業員および関係する人々への環境教育実施 ●子供環境学習55回、農業体験10回実施 | ●廃棄物分別「ユニーのゴミ図鑑」を発行 ●子供環境学習71回、農業体験4回実施 | ○ | ●廃棄物分別・CO2削減についての教育を実施 ●子供環境学習90回、農業体験10回実施 |
| 環境汚染防止 | ●環境汚染物質の排出抑制と監視 | ●各地域環境展、シンポジウム等への参加 | ●COP10協賛事業「テーブルの上の生物多様性」を開催、メッセナゴヤ、EPOCに参加 ●グリーンロジスティック研究会に参加 | ○ | ●各地域環境展、シンポジウム等への参加 ●エコ・ファースト推進協議会活動 |
| | | ●環境関連事業者連絡会セミナー開催 ●全店舗での排水水質監視を実施 ●(清掃点検表の完全実施) ●低濃度PCBの適正管理実施 | ●講演会、リサイクル施設見学会 2回実施 ●水質検査の実施と排水管理マニュアルの徹底 | △ | ●環境関連事業者連絡会セミナー開催 ●全店舗での排水水質監視を実施 ●(清掃点検表の完全実施) ●低濃度PCBの適正管理実施 |

環境マネジメント

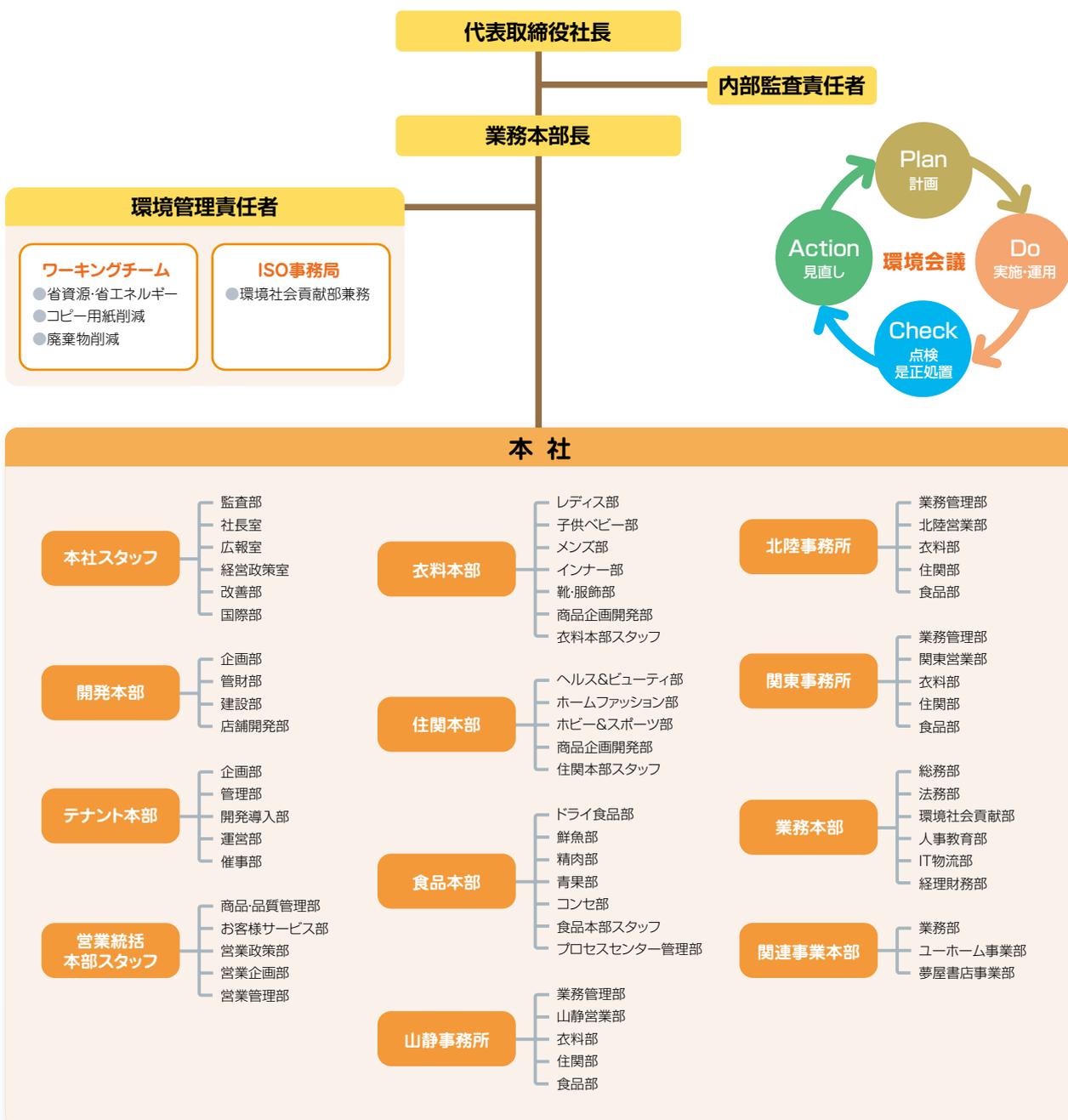
ユニーは「持続可能な社会」を目指して企業活動を推進しています。

現在のことだけでなく、未来の地球環境を守り、人間が自然と共存していく社会を「お買い物」を通してお客様や生産者、取引先そしてその他の関係する人達と一緒に構築していくことを「環境方針」にしています。この環境方針を実現するために、環境マネジメントシステムを実践しています。

環境マネジメントシステム (EMS)

ユニーは総合小売業として営業活動を進めていくうえで、店舗や事業所の周囲の環境に影響を及ぼしています。毎日たくさんの商品を仕入れ販売する営業活動がもたらす環境影響には、物流の車両や店舗施設で使用する電気などのエネルギーやCO₂の発生、お客様や従業員の来店交通手段、廃棄物のリサイクルや処理、商品や容器包装などがあり、こうした環境影響を低減してしていくことを環境マネジメントシステムで実践しています。

このシステムは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（検証）・Action（見直し・改善）のスパイラルで環境方針を実現し、地球環境を保全するために継続的に改善していくものです。





環境マネジメント (ISO14001) の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後静岡本部・北陸本部・関東本部がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月に各本部を本社が統合し、組織変更を行いました。その後、8月にユースストアと合併し、組織変更・拡大を図りました。

また、2004年から2009年まで審査機関は、オリオン・レジストラ・ジャパンでしたが、2010年1月から審査登録機関を株式会社日本環境認証機構 (JACO) に変更しました。



部門別審査状況



サーバランス全体会議

ISO14001 推進のための社員教育

環境方針・環境目的目標や環境マネジメントシステムの理解を深め、環境活動を実践していくために、適用範囲の全従業員と関係する人々に教育を行いました。環境目的目標は、各部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出して設定しました。環境目的目標を達成するための手段である「環境実施計画」策定についての教育を実施しました。

また、環境マネジメントシステムの内部監査の監査員教育を行い、認定取得者を育成しています。現在までに認定取得者は232人になりました。



内部監査員研修



全体教育

ISO内部監査

当社では「企業価値向上」の観点から「エコ・ファーストの約束」が制定され、ISO14001推進の重要性と活動範囲はさらに拡大しています。「環境マネジメントシステム」のISO14001要求事項への適合を確認するために、登録企業内に内部監査が規定されています。

内部監査にあたってはこの新たな要件を鑑み、厳正な業務遂行と整備・運用への積極的な提言を心掛け、取り組みへの貢献を果たしたいと考えます。



内部監査責任者
水谷 巧

継続的な環境目的目標

- 省エネ活動… 空調温度規制
照明の個別管理
クールビズ・ウォームビズ
- 省資源… コピー用紙使用削減
- 廃棄物の削減とリサイクル推進
- 本社周辺の清掃活動



ゴミ運動いざわ

「エコ・ファーストの約束」を環境目的目標にしました

- 食品リサイクルの推進
- 容器包装の削減とリサイクル推進
- 環境教育の実施
- 環境配慮商品の開発および販売拡大
- エコストアの建設

緊急事態への対応

- 地震・消防訓練



初期消火訓練



避難訓練



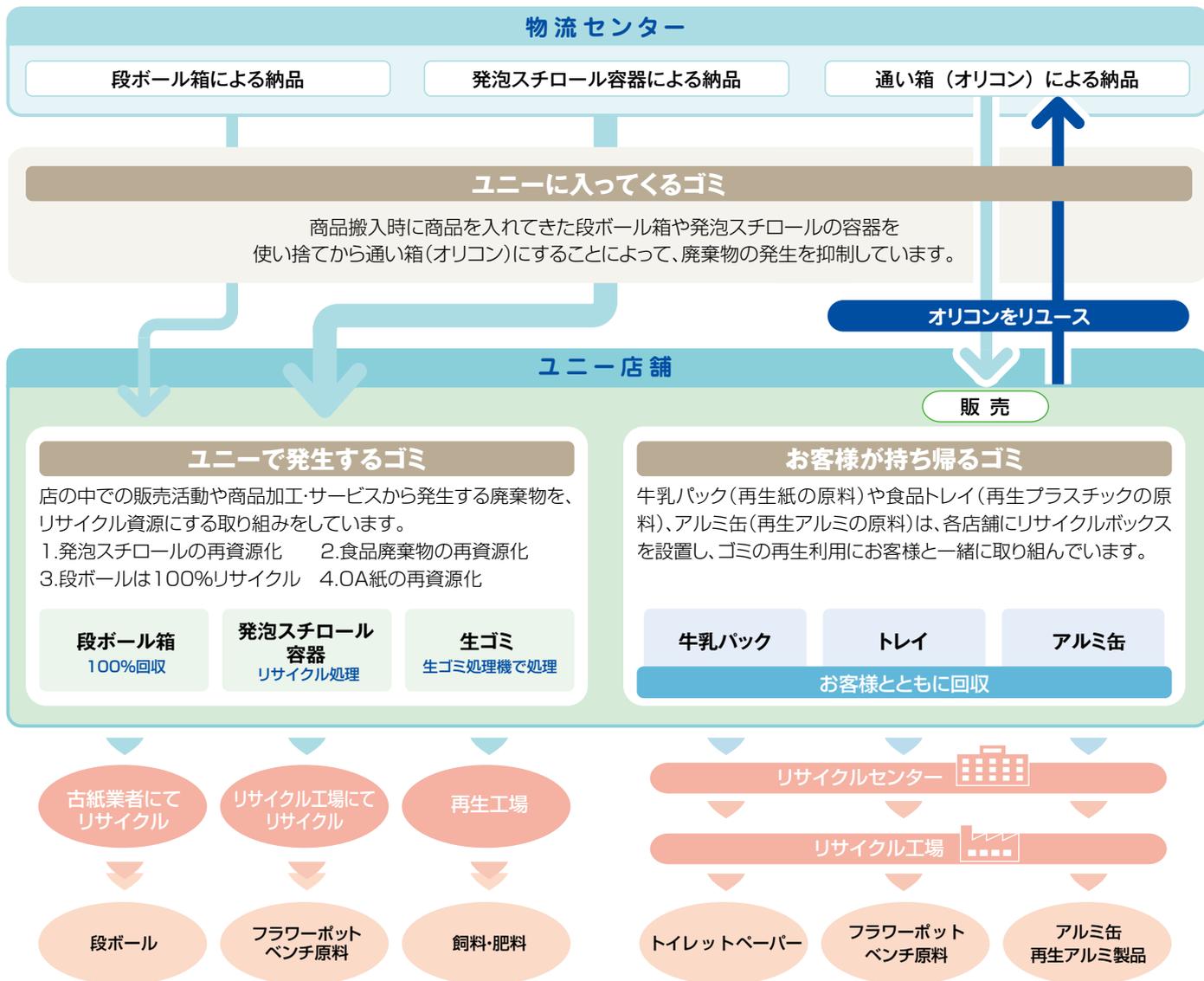
消防署の講評

廃棄物を削減する取り組み

企業活動による廃棄物をできるだけ出さないようにするためには、廃棄物の発生場所や原因、種類などを正確に捉えることが必要です。ユニーでは全店舗で廃棄物計量器を設置、排出場所・分類別に計量し、廃棄物の発生抑制やリサイクル推進に努めています。また、家庭に持ち帰るとゴミになる容器包装をできるだけ削減、さらに使用済みの容器包装を店頭回収して再生利用しています。

廃棄物削減のための取り組み

廃棄物の再資源化



廃棄物の分別

ユニーでは、従業員向けに写真表示のPOPをつけたゴミステーションを設置し、分別の精度を高めています。ゴミステーションには、ゴミ捨てのルールやゴミ庫へのルート掲示、またガムテープやゴミ袋、荷造り用のヒモが設置されています。



「ユニーのゴミ図鑑」



ゴミステーション



生鮮部門のコンパクトな分類箱



レジカウンター内、事務所内の分別箱



2010年度年間廃棄物排出量

店舗における廃棄物排出量

ユニーでは2003年より順次店舗に廃棄物計量器を設置し、全ての廃棄物を発生場所ごとに分別計量を実施しています。排出場所（売り場・テナント・その他）ごとに管理することで排出責任を明確にし、廃棄物発生原因を追究し、発生抑制に努めています。また、廃棄物も原料ごとに分別を徹底することで再生資源としての価値が上がり、リサイクルが進みます。2008年に合併した旧ユースタ全店に計量器の設置を進め、2009年度には全店設置が終了しました。

2010年度の廃棄物総排出量は、2009年比97.0%と、3%削減できました。分類別ではほとんどの種類で削減されましたが、若干増加したのもありました。段ボールが2009年度では前年比89.0%と大幅に削減できましたが、2010年度では98.3%と削減速度が落ちています。オリコンやクレートなどの通い箱は、国内での物流には導入できませんが、海外生産商品に使うことは難しいようです。また、可燃ゴミ（分別できていない焼却ゴミ）から紙類を分別、再生資源化が進み、可燃ゴミが削減され再生できる紙が増えたことは、分別の徹底が進んだ表れといえます。

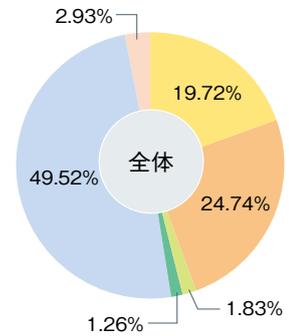
今後は、前年度に比べ廃棄物が増加した店舗で原因を追究し、発生抑制を進め、排出してしまった廃棄物はリサイクルを推進します。

廃棄物排出量

(単位:kg)

| 区分 | 種類 | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 前年比[%] | |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------|
| 可燃ゴミ | 焼却ゴミ | 一般可燃ゴミ | 11,624,610 | 12,291,571 | 12,128,956 | 98.7% |
| | | ビニール(食品系) | 4,611,976 | 4,837,767 | 4,779,492 | 98.8% |
| | | 小計 | 16,236,586 | 17,129,338 | 16,908,448 | 98.7% |
| | 食品ゴミ | 生ゴミ | 15,139,497 | 16,196,931 | 14,777,363 | 91.2% |
| | | 魚のアラ | 3,917,146 | 4,052,794 | 3,712,463 | 91.6% |
| | | てんかす | 1,129,712 | 1,217,085 | 1,302,481 | 107.0% |
| | | 廃食用油 | 1,249,330 | 1,441,346 | 1,417,817 | 98.4% |
| 小計 | 21,435,685 | 22,908,156 | 21,210,124 | 92.6% | | |
| 不燃ゴミ | ビン | 807,775 | 961,344 | 1,034,530 | 107.6% | |
| | 缶 | 534,507 | 558,496 | 533,041 | 95.4% | |
| | 小計 | 1,342,282 | 1,519,840 | 1,567,571 | 103.1% | |
| 発泡スチロール | | 1,154,118 | 1,188,429 | 1,082,640 | 91.1% | |
| 段ボールおよび再生紙 | 段ボール | 46,204,748 | 41,127,317 | 40,441,290 | 98.3% | |
| | 紙類(再生可) | 1,642,135 | 1,966,093 | 2,012,196 | 102.3% | |
| | 小計 | 47,846,883 | 43,093,410 | 42,453,486 | 98.5% | |
| その他 | プラスチック | 527,375 | 502,768 | 477,839 | 95.0% | |
| | ビニール(衣住系) | 929,543 | 965,095 | 966,398 | 100.1% | |
| | ペットボトル | 270,022 | 320,172 | 370,258 | 115.6% | |
| | 陶器・ガラス | 106,359 | 113,614 | 121,284 | 106.8% | |
| | 金属カス | 168,866 | 181,303 | 152,504 | 84.1% | |
| | その他 | 541,833 | 489,410 | 424,671 | 86.8% | |
| | 小計 | 2,543,998 | 2,572,362 | 2,512,954 | 97.7% | |
| 合計 | | 90,559,552 | 88,411,535 | 85,735,223 | 97.0% | |

廃棄物構成比率



廃棄物計量システム



● 廃棄物は排出場所・分別毎にバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



● シールを発行します。同時にデータは事務所の端末に記録、集計され、本社環境社会貢献部の端末に送信されます。テナントや売場には毎月集計された結果が告知されます。



● 計量した廃棄物は、それぞれ温度管理された廃棄物庫で保管されます。腐敗しやすい食品廃棄物などは冷蔵保管されます。

環境にやさしい容器包装

容器包装は、商品の品質や衛生を保ち、安全に持ちやすくする役割を果たしています。

セルフサービスで商品を販売しているユニーでは、多くの商品を容器包装の状態の販売しています。

ところが、こうした容器包装は商品を取り出した後にゴミとして家庭から排出されます。

ユニーでは容器包装を見直すことで、家庭から排出されるゴミの削減、資源の節約、また容器包装由来のCO₂発生抑制を図っています。



容器包装の見直し

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- トレイを使わない販売の検討
- 贈答品などの簡易包装

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルによる店頭回収
- 再生資源として製品（トイレトーパーペーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

3 サステイナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- バイオマスプラスチック製容器の使用
- 使用済みバイオマスプラスチック製容器のリサイクル

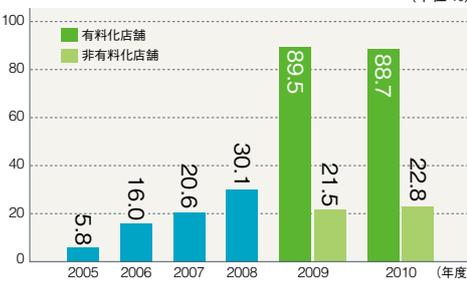
1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み



ノーレジ袋キャンペーン

スーパーでのお買い物に、薄くてじょうぶで水にも強いレジ袋が使われ始めたのは1960年代でした。家庭からのゴミを減らすためにレジ袋使用削減運動「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、マイバッグが環境にやさしいお買い物ものしりになりました。2007年からは「レジ袋有料化」が始まり、ユニーでも2011年6月時点で約8割の店舗で実施し、1年間で2億枚のレジ袋を削減できました。

● レジ袋辞退率の推移



● レジ袋使用量の推移

| 年度 | 枚数(単位:千枚) | 重量(単位:t) | 備考 |
|------|-----------|----------|----------------|
| 2005 | 340,611 | 2,195 | 愛・地球博エコマネーに参加 |
| 2006 | 333,630 | 2,075 | ノーレジ袋キャンペーン開始 |
| 2007 | 310,559 | 1,818 | レジ袋無料配布の中止 |
| 2008 | 309,222 | 1,851 | 96店舗で無料配布中止 |
| 2009 | 134,678 | 1,029 | 196店舗で無料配布中止 |
| 2010 | 116,749 | 964 | 約73%の店舗で無料配布中止 |

※2008年にユースストアと合併し80店舗増える
※容器包装リサイクル法に基づき、財団法人容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

● 容器包装リサイクル法への対応

| 年度 | 委託金額 |
|------|-----------|
| 2005 | 2億5,487万円 |
| 2006 | 2億7,322万円 |
| 2007 | 2億9,729万円 |
| 2008 | 2億7,978万円 |
| 2009 | 2億2,272万円 |
| 2010 | 1億6,655万円 |



レジ袋有料化

レジ袋無料配布中止（有料化）への取り組み

ユニーではノーレジ袋キャンペーンをお客様と一緒に推進してきましたが、自治体から「廃棄物削減・地球温暖化防止」を目的としたレジ袋使用削減の要請があり、また消費者団体などからの要望もあって、2007年からレジ袋無料配布中止に取り組み始めました。2007年6月に横浜市緑区ピアゴ中山店（旧ユニー中山店）で最初にレジ袋有料化を始めたところ、自治体や消費者との協働や周囲の同業他社の連携もなかったため、来店客が減少し売上が一時低迷、厳しいスタートとなりました。

しかし、「今までと同じようにレジ袋の使い捨てを続けたら、未来の子供達にきれいな地球を残せない」とお客様に訴え、客数・売上は持ち直しました。この反省を踏まえ、以降レジ袋有料化を実施するには、自治体や市民の皆様との合意のうえ、周囲の同業他社と連携し、地域全体で取り組みました。後から実施した地域では大きな問題は起こりませんでした。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援していただくこと。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

● 府県別レジ袋有料化実施店舗率

| 府県名 | 食品取扱店舗 | 有料化実施店舗 | 実施率 |
|------|--------|---------|--------|
| 実施済み | | | |
| 岐阜県 | 19 | 19 | 100.0% |
| 山梨県 | 3 | 3 | 100.0% |
| 富山県 | 7 | 7 | 100.0% |
| 石川県 | 4 | 4 | 100.0% |
| 福井県 | 3 | 3 | 100.0% |
| 茨城県 | 3 | 3 | 100.0% |
| 福島県 | 1 | 1 | 100.0% |

| 府県名 | 食品取扱店舗 | 有料化実施店舗 | 実施率 |
|------|--------|---------|-------|
| 一部実施 | | | |
| 愛知県 | 96 | 92 | 95.0% |
| 三重県 | 15 | 14 | 93.3% |
| 静岡県 | 23 | 20 | 87.0% |
| 長野県 | 5 | 3 | 60.0% |
| 神奈川県 | 10 | 1 | 10.0% |

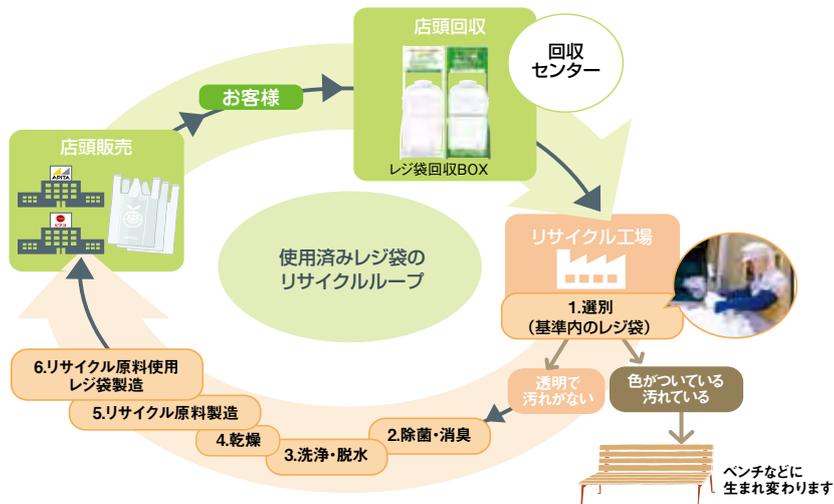
| 府県名 | 食品取扱店舗 | 有料化実施店舗 | 実施率 |
|-----|--------|---------|------|
| 未実施 | | | |
| 奈良県 | 1 | 0 | 0.0% |
| 千葉県 | 3 | 0 | 0.0% |
| 埼玉県 | 7 | 0 | 0.0% |
| 群馬県 | 6 | 0 | 0.0% |
| 栃木県 | 2 | 0 | 0.0% |
| 滋賀県 | 6 | 0 | 0.0% |
| 京都府 | 1 | 0 | 0.0% |
| 新潟県 | 3 | 0 | 0.0% |

(2011年6月20日現在)



使用済みレジ袋のリサイクル

レジ袋の使用削減を進めると同時に、使用済みのレジ袋を回収し、再生資源として活用する取り組みを2008年より実施しています。回収したレジ袋は、着色の有無や汚れによって、再生レジ袋の材料として使用したり、ベンチなどの材料として再利用しています。



地域環境活動に寄付

レジ袋を無料配布しない地域では、1枚5円で販売しています。購入していただいたレジ袋1枚につき1円を地域の環境活動に寄付しています。

■2010年度実績

92市町 175店舗 22,751,073円



レジ袋収益金感謝状贈呈 (石川県金沢市)



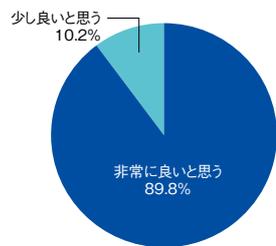
名古屋市植樹祭 (佐々木会長)

トレイを使用しない販売への取り組み

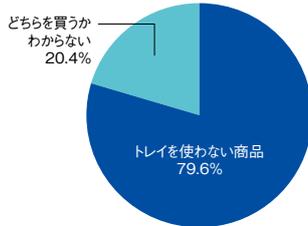
レジ袋の無料配布中止を8割近くの店舗で実施し使用削減が進み、次の容器包装削減には食品トレイを取り上げました。名古屋市緑区のピアゴ清水山店精肉売り場で、2011年3月23日から4月8日までの約2週間、トレイを使わない販売の実験を行いました。2008年にアピタ千代田橋店 (名古屋市) で行った実験では、トレイを使わずポリ袋を使用した販売を実施しましたが、今回は紙シートにラップを使ったもので販売しました。購入前アンケートの「トレイを使わない販売」について、「非常に良い」と答えた方が89.8%でしたが、「トレイを使わない商品を買う」という回答は79.6%。実際にトレイを使わない商品の販売個数は約22%でした。購入理由は、「ゴミが減る」「環境にやさしい」「冷蔵庫での保管に便利」などでした。「トレイを使わない商品」の購入割合が高いものは、「鶏胸肉」(49.5%)、「豚コースカツ」(24.9%) でした。



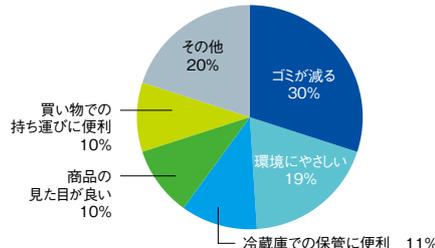
●「トレイを使わない商品の販売をどう思いますか？」



●「トレイ使用商品」と「トレイを使わない商品」どちらを買いますか？」

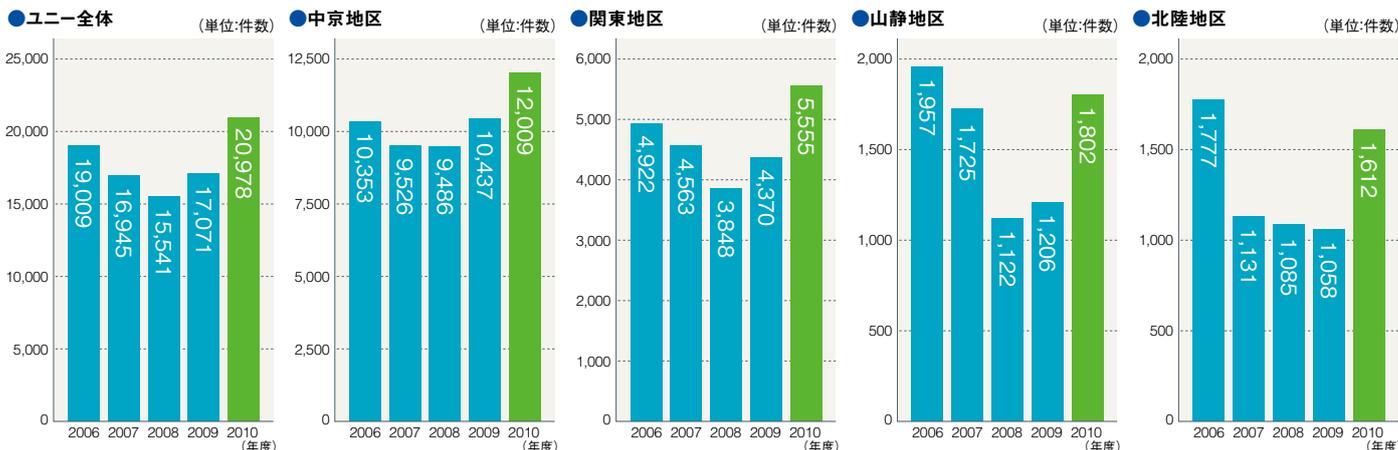


●「トレイを使わない商品」を買った理由



家電リサイクル

家電リサイクル状況



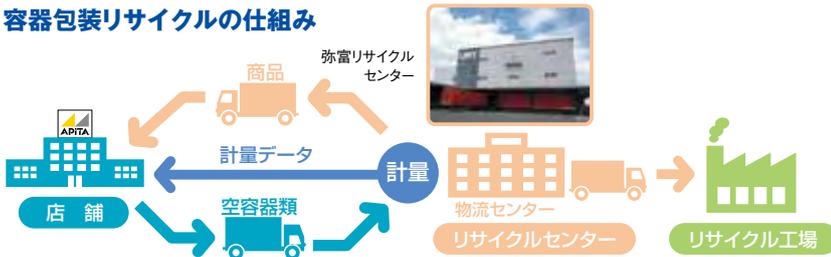
② 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは、店舗から配送センター内のリサイクルセンターに搬送する際に、商品物流便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂排出削減に努めています（現在、北陸地区・中京地区の配送センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場へ搬入しています）。

リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器を計量し効率的に搬送しやすいうように圧縮し、それぞれのリサイクル工場へ搬出します。

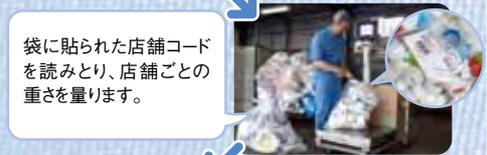
容器包装リサイクルの仕組み



計量システム



各店舗からリサイクル資源が到着します。



袋に貼られた店舗コードを読みとり、店舗ごとの重さを量ります。



計量したデータはユニー本部へフィードバックします。
※計量システムは、中京地区で実施

リサイクルボックスによる容器回収

ユニーはお客様の家庭から出る廃棄物を削減し、再生資源とするために、使用済み容器包装を店頭のリサイクルボックスで回収しています。これはお客様と一緒に進める「循環型社会」構築のための取り組みの一つです。

各店舗のリサイクル回収実績は毎月集計し、ポスターで公表します。またリサイクルの流れやリサイクル製品をわかりやすく説明したポスターなども掲示し、お客様にリサイクルの仕組みを理解していただくよう努めています。

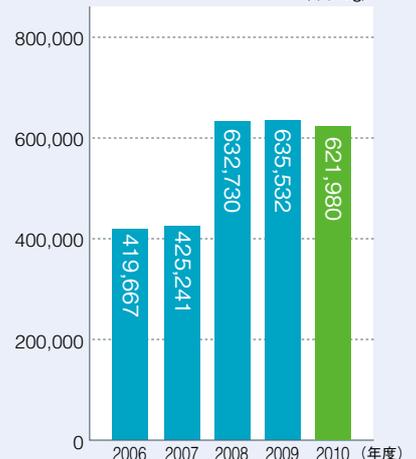


■2008年にユースストアと合併し、店舗数が増えました。



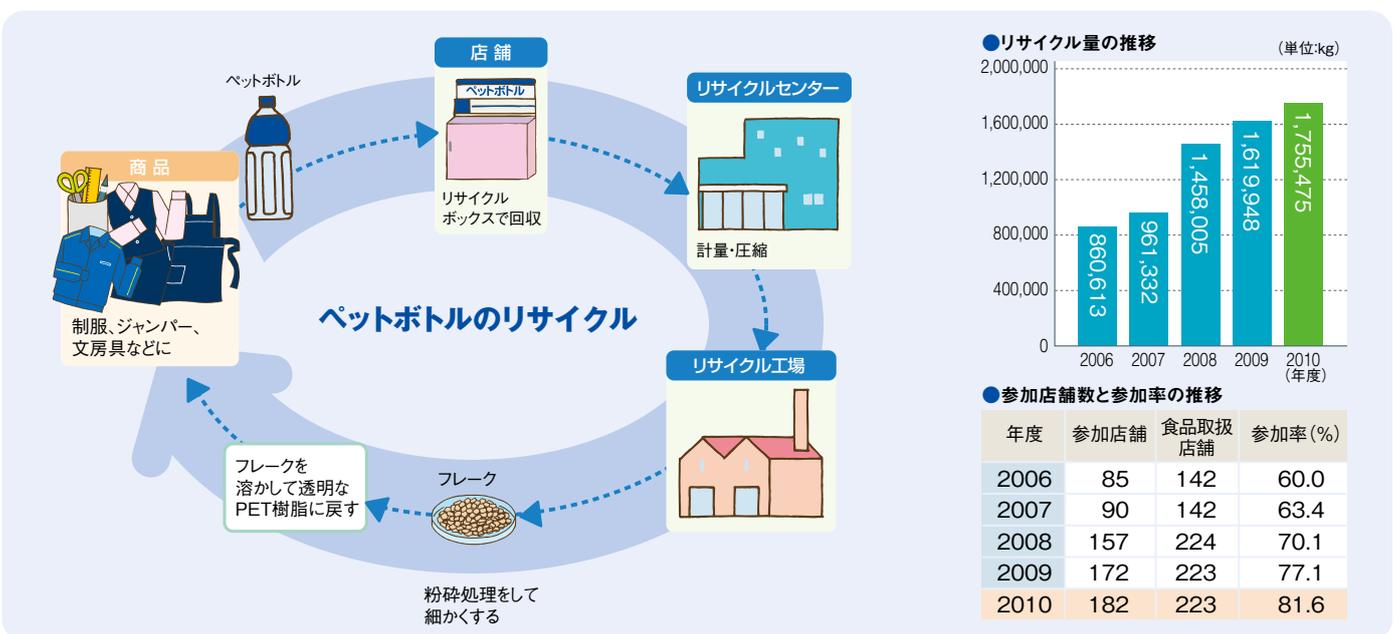
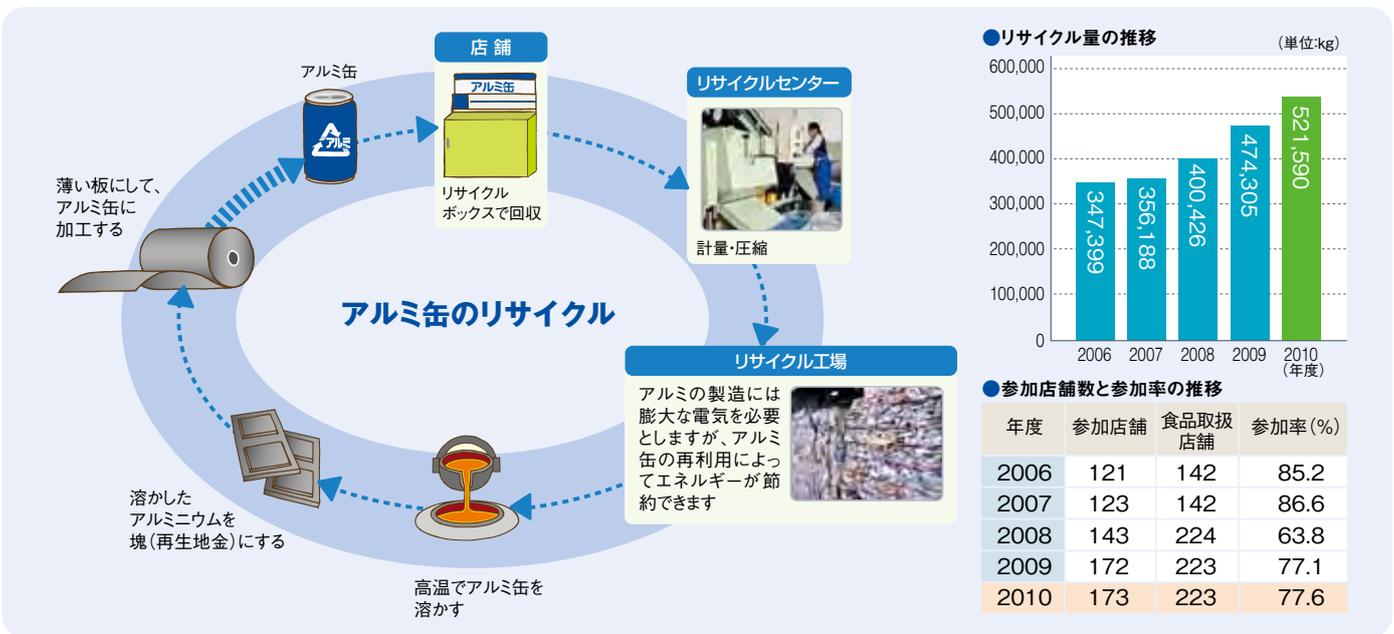
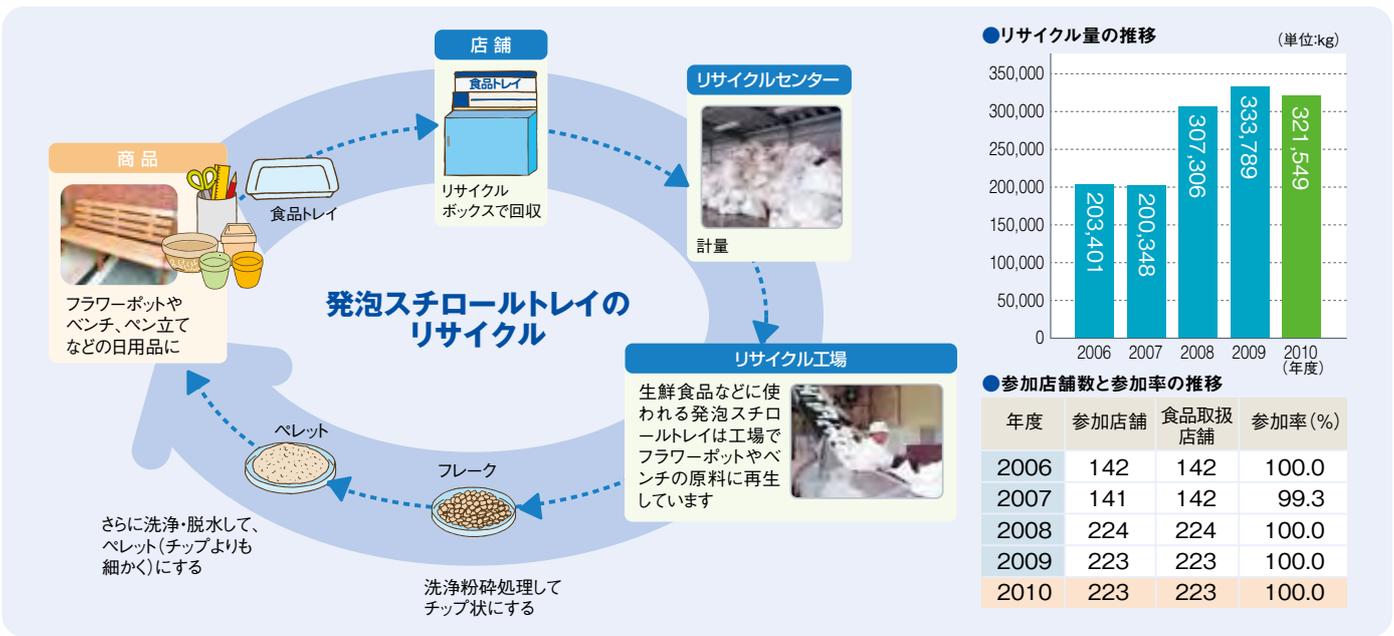
●リサイクル量の推移

(単位:kg)



●参加店舗数と参加率の推移

| 年度 | 参加店舗 | 食品取扱店舗 | 参加率 (%) |
|------|------|--------|---------|
| 2006 | 142 | 142 | 100.0 |
| 2007 | 142 | 142 | 100.0 |
| 2008 | 220 | 224 | 98.2 |
| 2009 | 223 | 223 | 100.0 |
| 2010 | 223 | 223 | 100.0 |



■2007年からバイオマスプラスチック製容器の回収をしています (p.19)

③ サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器の使用

容器包装に使われるプラスチックの原料は、ほとんどのものが石油です。石油は地球に残された量がたくさんあるわけではなく、近い将来には使い切ってしまう恐れがある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような資源を使ってよいのでしょうか。また、石油は化石資源なので産出するときも廃棄するときもCO₂を排出し、地球温暖化に悪影響を与えます。そうしたことを考えて、ユニーでは2006年より、植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により地球のCO₂を吸収して育成し、また繰り返し栽培できることから、サステナビリティ(持続可能な)原料です。



バイオマスフォーラム in 名古屋

限りのある化石資源(石油や石炭など)と異なりバイオマス資源(生物資源)は、持続可能な資源です。なごや環境大学、高分子学会グリーンケミストリー研究会の協力で、一般消費者にバイオマス資源の活用や植物から製造するバイオマスプラスチックを知ってもらうために、2008年から開催しています。特に石油由来のプラスチックの生産・消費に代わる持続可能なバイオマスプラスチックの活用で、低炭素社会を目指す容器包装の開発・普及を図ります。



三県一市グリーンキャンペーン

2002年より「環境にやさしいお買い物」を推進するために、消費者にグリーン購入を普及するキャンペーンを、愛知県・三重県・岐阜県・名古屋市と一緒に実施しています。「何を買ったらよいのか」「どうやって持ち帰ればよいのか」「使い終わった容器包装はどうしたらよいのか」を買い物で地球環境保全につながるライフスタイルをキャンペーンを通して啓発しました。



今後の課題と展開

バイオマスプラスチックは、植物を原料としたサステナブルな原料です。使い終わった後に廃棄してもCO₂を増やさず、再生資源としてリサイクルできるので、環境にやさしい容器包装の原料として適しています。

ユニーがバイオマスプラスチックを2006年に初めて青果売り場と卵パックに使用してから4年が経ちましたが、なかなか他の商品や企業に普及していません。しかしこの間、生分解する利点がある反面、熱や湿度に若干変化しやすく使用が限定されていたポリ乳酸(PLA)や石油由来製品と性質が変わらないバイオマスポリエチレンが製品化されてきました。

今後は、従来のプラスチックと同様に使用できるバイオマスポリエチレンを容器包装に使用することで、商品のカーボンフットプリントの数値を抑え、環境にやさしいお買物を推進し、地球温暖化防止や化石燃料の節約につなげていきます。また、容器包装リサイクル法改正に向け、このサステナブルなバイオマスプラスチック製容器包装を「その他プラスチック」から分離し、リサイクル委託料金の見直しも検討してもらいたいと考えています。

食品廃棄物リサイクルシステム

現在日本では、食品の自給率が40%と輸入に頼っているにもかかわらず、大量の食品廃棄物（未利用食品）が発生しています。

食品廃棄物の発生抑制と有効な再利用のために、食品リサイクル法が施行されています。

ユニーでは店舗からの食品廃棄物をできるだけ発生させない取り組みと、

排出してしまった食品廃棄物を循環資源として再利用するための「食品リサイクルループ」の構築を推進しています。

ユニーの方針

ユニーの食品リサイクルの方針

2001年にユニー環境部が設立された時点で、食品リサイクル法はすでに施行されており、食品関連事業者は業種の区別なく、20%以上リサイクルなどの実施が義務付けられていました。ユニーはこの数値を達成するために、「食品リサイクルの方針」を決めました。食品リサイクルの方法として、環境負荷の少ない、経済的に負担が重くなく、持続可能なものを構築してきました。特に再生品・農畜産物を自社で販売するリサイクルループの構築にこだわっています。

その後2007年に食品リサイクル法が改正され、新たに小売業45%というリサイクル率目標が設定され、さらに取り組みの強化を図りました。食品リサイクルは、自然環境や生物多様性を保全し、持続可能な地域循環を目指すものです。

① **安全であり環境負荷が少ないこと。**
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)

② **再生資源として有効であること。**
(有価資源になり再廃棄しない)

③ **経費が抑えられること。**
(公共処理料金との比較)

④ **継続できる方法であること。**
(リサイクルルートが確立していること)

リサイクル実績

| 店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品) | 2009年度 | | | 2010年度 | | |
|----------------------------------|--------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|
| | 排出量(t) | リサイクル量(t) | リサイクル率(%) | 排出量(t) | リサイクル量(t) | リサイクル率(%) |
| 生鮮食品の調理クズ(野菜果物など)、賞味期限切れや飲食の食べ残し | 16,197 | 4,437 | 27.4 | 14,777 | 5,685 | 38.5 |
| 魚のアラ(魚介類の調理クズや内臓・骨) | 4,053 | 3,541 | 87.4 | 3,712 | 3,190 | 85.9 |
| 廃食用油(使用済み揚げ油) | 1,441 | 1,441 | 100.0 | 1,418 | 1,418 | 100.0 |
| てんかす(フライやテンプラなどの揚げカス) | 1,217 | 25 | 2.1 | 1,303 | 85 | 6.5 |
| 合計 | 22,908 | 9,444 | 41.2 | 21,210 | 10,378 | 48.9 |

食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷の少ないリサイクルの構築に努めてきました。

2000年

- 福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
- 名古屋市内店舗に熱乾燥処理機導入(アピタ新守山店)

2001年

- アピタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加

2002年

- 茨城県で堆肥へのリサイクルに取り組む
- 愛知県内2店舗に真空乾燥機導入(アピタ岡崎本店・アピタ東海荒尾店)

2003年

- 富山市内4店舗、富山エコタウンに参加(バイオガスによる発電)

2004年

- 長野県(アピタ伊那店)・奈良県(アピタ大和郡山店)の店舗に真空乾燥機導入
- 愛知県内3店舗で愛知経済連の協力により堆肥化および作物栽培・販売の実験開始
- 三重県で堆肥へのリサイクルに参加(アピタ鈴鹿店)

2005年

- 三重県内で堆肥を使って栽培した作物の販売開始(アピタ松阪三雲店)

- 愛知県で2店舗(アピタ瀬戸店・アピタ江南西店)乾燥機導入

2006年

- 横浜市内3店舗が、店舗から排出した食品残さを飼料にして飼育した豚の肉を販売する「横浜有機リサイクル」(登録再生事業)に参加

2007年

- 愛知県刈谷市で構築した「食品リサイクルループ」が、1月に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- けやきウォーク前橋(アピタ前橋店)・アクアウォーク大垣(アピタ大垣店)に真空乾燥機を導入

2008年

- 愛知県一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるユニー・サークルKサンクスで取り組むリサイクルループが完成し、食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- アピタ御嵩店に真空乾燥機を導入

2009年

- 名古屋市内および春日井市内店舗から排出した食品残さを飼料にする取組「中部有機リサイクル」に参加
- 石川県・山梨県・三重県で地域の再生利用事業者や農業生産者とともに新たなリサイクルループを構築予定

- 名古屋市内および春日井市・瀬戸市内店舗から排出した食品残さを飼料化施設「中部有機リサイクル」に搬入し、リサイクルループの構築を図る
- 千葉県・埼玉県・山梨県・石川県でリサイクルループの取り組みを始める

2010年

- 三重県(三功)、神奈川県(横浜市有機リサイクル)、富山県(富山グリーンフードリサイクル)の既存リサイクルループを再生利用事業計画に申請。8月横浜市有機リサイクルが認定される
- 愛知県(中部有機リサイクル)のエコフードで豚の飼育実験を実施
- 千葉県(ブライトビック)では、コンビニエンスストアのサークルKサンクス・ファミリーマートとの共同でリサイクルループを構築。ユニーの関東地区で山崎製パンが製造した「エコボークで作った惣菜パン」を販売

2011年

- 3月ブライトビック・山崎製パンのリサイクルループが認定される。6月エコボークの惣菜パンをユニーとコンビニ2社で販売
- 6月三功のリサイクルループが認定される
- 愛知県・岐阜県(中部有機リサイクル)のリサイクルループを申請。岐阜県多治見市を組み込んだ
- 京都府(京都有機質資源)のリサイクルループを申請

リサイクルループを構成するパートナーシップ

私達がそれぞれの役割を果たすことによって、リサイクルの環が完成します。食品をムダにせず、ゴミも減らすことができる、地球にやさしいライフスタイルです。「安全安心で新鮮、そしておいしい」、作った人の顔が見える農産物をお客様にお届けすることが、ユニーの役目と考えています。



食品関連事業者



食品循環資源を排出する店舗

- 調理クズ・魚アラ・売れ残り・残飯などから異物を排除し分別、計量する
 - ・分別マニュアルの作成
 - ・従業員・テナントへの教育の徹底
- 食品循環資源の品質を確保するために、適正に保管する
 - ・廃棄物庫の整備 (清掃・冷蔵施設)
 - ・保管容器の整備 (分別容器・洗浄)

再生利用事業者



- 品質の高い再生製品(堆肥・飼料)を製造する
 - 原料である食品循環資源・製造方法・施設・保管の基準作成と監視
- 農業生産者のニーズにあった再生製品を製造する
 - 再生製品の販売先を確保し、農業生産者とパートナーシップを図る

農業生産者



リサイクル農産物を消費者に提供する

- トレーサビリティの確立(生産者の顔の見える農産物)
 - 農業生産者の生産技術と適正な再生製品(堆肥・飼料)によって、安全安心な農産物を提供してもらう

リサイクルループを構築するために

店舗の所在地で「地域循環型食品リサイクルループ」を構築し、地域の再生利用事業者や農業生産者とパートナーシップを図っていくことがユニーの方針です。パートナーを探すために、紹介者(もしくはコーディネーター)が必要になります。パートナーシップで最も重要な要素は、お互いの食品リサイクルに対するポリシーが合っていることです。

● 環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生利用事業者の製造する堆肥や飼料が、農業生産者の利用に適した品質かどうかを確認する。

再生製品(堆肥や飼料)を利用する農業者を探す

地産地消を前提に、生産技術の高い農業者に主旨を理解してもらい、パートナーになってもらう。

● 仕入担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

販売計画を立てる前に、農作物の栽培履歴や品質が販売基準に達しているかどうかを確認する。

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る

販売計画に基づいて生産計画を検討して、購入契約を結ぶ。

食品関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

売り場にリサイクルループの主旨説明や生産者の紹介などを掲示し、「安全安心な農作物」であることを明示する。

食品リサイクルループの環

ユニーは食品リサイクル法を遵守し、自社から排出される食品廃棄物の再資源化を推進していく上で、再生利用事業者(堆肥や飼料を製造する事業者)・農業生産者とパートナーシップを組み、リサイクルループを構築することを目標としています。

また、リサイクルループで生産された農畜産物は、安全安心、新鮮で美味しく、消費者に喜んで買ってもらえる品質を確保していくことを目指しています。

ユニーの循環型リサイクル(乾燥食品残さ・大根のツマ)

2000年からユニーの店舗に食品残さ乾燥機を導入し、乾燥した食品残さを堆肥製造業者に販売し、堆肥の原料にしています。この堆肥を使って栽培した大根で「刺身のツマ」を作って、店舗で使用しています。2000年から2008年までに食品残さ乾燥機を新規開店店舗に導入してきましたが、2007年に食品リサイクルループが再生利用事業計画に認定されたことで地域循環型農業を推進する方針とし、乾燥機の新規導入は中止しました。現在では6店舗で継続しています。





各地区に拡大する食品リサイクルループ

ユニーは店舗を営業している各地域で食品リサイクルループを構築し、継続的に循環の環を回すことを目標としています。食品リサイクルループは、廃棄物を再生資源化することだけではなく、消費者と農業者を結び地産地消を実現する有効な手段でもあります。また、トレーサビリティが明確であることから、食の安全安心にもつながります。そして、食品リサイクル法「再生利用事業計画」を国に申請し、認定されることで、リサイクルループの有効性と法遵守を継続させていきます。

●全国に拡大する食品リサイクルループ

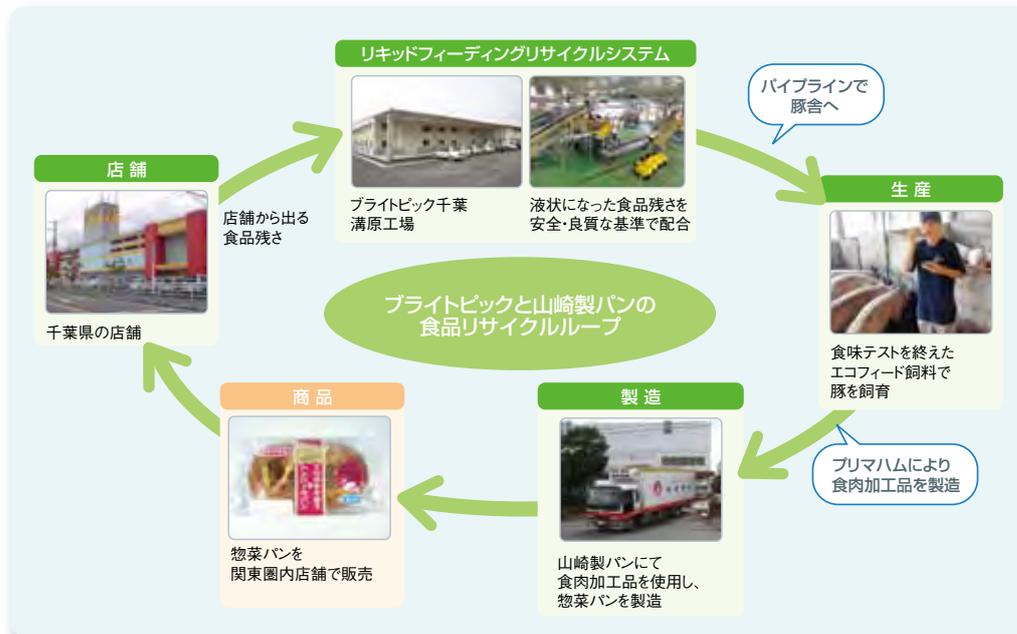
| 県名 | リサイクルループ | | 県名 | リサイクルループ | |
|---------|-------------|-----|-----|----------------|-----|
| 埼玉県 | アイル・クリーンテック | 堆肥化 | 長野県 | いいだ有機 | 堆肥化 |
| 静岡県 | 静岡油化工業 | 堆肥化 | 富山県 | 富山グリーンフードリサイクル | 堆肥化 |
| 山梨県 | 富士川クリーン | 堆肥化 | 石川県 | トスマク・アイ | 堆肥化 |
| 愛知県・岐阜県 | 中部有機リサイクル | 飼料化 | 福井県 | 福井環境事業 | 堆肥化 |
| | | | 京都府 | 京都有機質資源 | 飼料化 |

※2011年6月までに「再生利用事業計画」に認定された食品リサイクルループ→5件

ブライトピック・プリマハム・山崎製パン【千葉県】

2009年に千葉県の店舗から排出される食品残さ（野菜）を再生利用事業者（ブライトピック：飼料化）に搬入し、生産された豚を原料にプリマハムで肉惣菜を製造。これを使って山崎製パンで作った惣菜パンを関東地区の店舗で販売するリサイクルループを構築しました。このリサイクルループには、サークルKサンクス、ファミリーマートも参加し、コンビニエンスストアの売れ残りの惣菜やパンを飼料の原料に使い、さらに惣菜パンを販売しています。

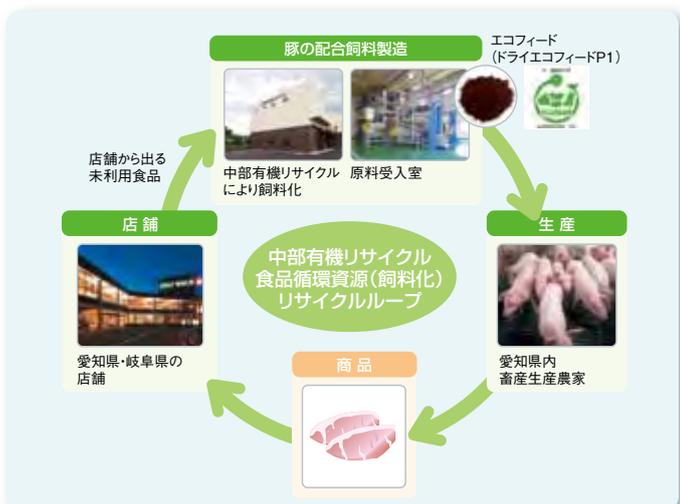
●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで4例目）



中部有機リサイクル・PBブランド豚【愛知県・岐阜県】

2009年から愛知県の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者（中部有機リサイクル：飼料化）に搬入し、豚の飼料の原料としています。2010年にユニーのPBブランド豚の給餌試験を実施、豚の成育状況や豚肉の品質が良好な結果を得、2011年からリサイクルループを構築しました。さらに、環境省中部事務所の食品リサイクル推進事業「中部地方における地域循環圏の構築に向けた検討会」に参加、岐阜県多治見市との協議が成立し同市の店舗もループに加わりました。

●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画申請中



京都有機質資源・鶏卵【京都府】

2010年から京都府の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者（京都有機質資源：飼料化）に搬入し、鶏の飼料を製造して鳥取レイクファームで飼育している鶏に給餌し、鶏卵を店舗で販売するリサイクルループを構築しています。

●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画申請中



各地で実施しているリサイクルループの環

ユニーは、店舗のある各地で食品リサイクルループの構築を「エコ・ファーストの約束」に掲げています。そして、リサイクルループを構築するために、再生利用事業者・農業生産者とパートナーシップを組み、地域循環を進めることで地産地消を実現しています。

また、従来リサイクルループを実践していた事業も、食品リサイクル法に定める「再生利用事業計画認定」の申請を行いました。これは、リサイクルループの有効性と法順守を継続させていくことを目的としています。

愛知県ヒラテ産業・JAグループ [愛知県]

ユニーが最初に取り組み、2005年から事業を始めたリサイクルループです。愛知県刈谷市の再生利用事業者（ヒラテ産業：堆肥化）とJAグループとの連携で、現在は、愛知県下の刈谷市・知立市・安城市・岡崎市のアピタ・ピアゴの店舗から食品残さを回収し堆肥を製造。その堆肥を使って栽培した野菜や果実を再び店舗で販売しています。農業者とのパートナーシップは、JAあいち海部・JAあいち中央と組んで、地産地消に取り組んでいます。



2007年10月第1回環境省食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞

- 2007年…食品リサイクル法再生利用事業計画を全国初の認定
- 2008年…第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞



D.I.Dバイオマスリサイクルシステム・JAグループ [愛知県]

2008年、愛知県一宮市の再生利用事業者（D.I.Dバイオマスリサイクルシステム：堆肥化）に一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるアピタ・ピアゴの店舗から食品残さを搬入し、JAグループとの連携でリサイクルループを構築しました。当初から複数の自治体にある店舗からなるリサイクルループで、現在ではさらに拡大し、大口町・岩倉市・小牧市の店舗からも食品残さを搬入しています。

- 2008年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで2例目）





横浜市有機リサイクル・アritaさんちの豚【神奈川県】

2006年にユニーとして初めて飼料化のリサイクルに取り組んだリサイクルループです。横浜市内の店舗から食品残さ（パンと野菜）を再生利用事業者（横浜市有機リサイクル：飼料化）に搬入し、豚の飼料を製造。この飼料を千葉県の在田さんが飼育する豚に給餌し、横浜市内店舗で「アritaさんちの豚」ブランドで販売しています。

- 2010年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで3例目）



三功・酵素の里【三重県】

2005年から三重県にある店舗から食品残さを再生利用事業者（三功：堆肥化）に搬入し、堆肥を使って農業法人酵素の里で栽培した野菜や果実を店舗で販売しています。さらに、2006年からは消費者、特に子供達を対象に、食品リサイクルループ・循環型農業の見学・収穫体験を実施し、食品リサイクルの普及啓発を協働で行っています。

- 2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで5例目）



食品リサイクル普及に向けての取り組み

JAあいち海部エコ部会

食品リサイクルループで農作物を栽培しているJAあいち海部で、エコ部会総会が開催されました。食品残さを材料にした堆肥を使った農作物の栽培は、堆肥の形質や栄養成分などの知識や技術が必要です。エコ部会ではそうした情報交換や1年間の収穫実績の報告、次年度の栽培計画などを話し合い、さらに輸送に携わる事業者やユニーの青果部との意見交換など、リサイクルループの継続的発展を確認し合いました。



第4回JAあいち海部エコ部会通常総会

農業体験

食品リサイクルループで栽培している米や野菜の農作業を子供達に体験してもらいました。普段は苦手な野菜でも、自分で採った野菜は食べられる子供はたくさんいます。また、堆肥場の見学では、堆肥の山に手を入れ発酵の温度を感じたり、においを嗅いだりして食品残さが堆肥に変わる様子を体感しました。堆肥をさわり、自分の手で野菜を収穫することで、食べるということは多くの生き物との関わりによって成り立っているという「生物多様性」を学びました。



リサイクル堆肥使用の田で田植体験

JAとの消費者交流会

食品残さで作った堆肥で野菜や米を生産している農家と消費者の交流会を定期的開催しています。農業体験などで農家の方と対話を通じて、安心安全な作物作りにかかる農家の努力を知ってもらいました。さらに消費者からは、「形が良くなくても、近くで取れた新鮮で美味しい野菜が食べたい」などの要望を伝えました。



JAあいち海部消費者交流会

2007年食品リサイクル法改正

- リサイクル率の目標値は業界別に設定されました。改正以前の「排出量の20%以上のリサイクル率」は義務ですが、2012年までに達成すべき目標が決められています。

| | |
|-----------|-----------|
| 食品製造業—85% | 食品卸業—70% |
| 外食産業—40% | 食品小売業—45% |
- 多量発生事業者には定期報告が義務づけられ、毎年発生した量と取り組み状況を主務大臣に報告します。一定のフランチャイズチェーンは、本部に報告する義務があります。
- 新再生事業計画（食品リサイクルループ）が制定されました。
- 再生利用手法が追加されました（熱回収・エタノール・炭化）。

低炭素社会の構築 [環境にやさしいお買い物]

地球温暖化防止のために温暖化効果ガスを抑制する取り組みが産業界や企業、個人へと拡がり、「努力目標」から「責任・義務」とされました。エネルギー問題や運輸・交通対策が推進され、新たに表明された「1990年比2020年のCO₂排出量25%削減」を目標に進みつつあった2011年3月、未曾有の東日本大地震が日本を襲いました。これからの日本の進むべき方向を考えると、「未来の子供達に美しい自然を残したい」願いを実現するため、地球温暖化を防止し持続可能な社会を構築するために、私達一人ひとりがどんな暮らし方をしていくかが問われています。私達のライフスタイルを変えていくことが、地球温暖化防止に大きな影響力をもたらします。

地球温暖化とは

地球環境の現状

CO₂などの温室効果ガス（GHG：Green House Gases）の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスがとれていたのですが、人間が化石燃料（石油や石炭、天然ガスなど）を消費するようになり、吸収しきれなくなっていました。

地球の温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することによりGHGを排出し、また熱を放出していることが原因です。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスが増え、平均気温が上がり、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。



CO₂排出量を減らすための取り組み

CO₂の見える化

私達の生活から排出されているといわれる「民生業務部門」のCO₂。その中で、毎日の食卓に並んでいる食品もCO₂排出に影響しています。例えば、季節外れの野菜や果物は、ハウス栽培で化石エネルギーを使って栽培されていたり、地球の反対側から輸入されていたりと、CO₂排出量の大きな食品が普段の食事に頻繁に出されていたりします。食品に限らず、ユニーで販売しお客様に購入していただいている商品やサービスは、原料の採取・生産・流通・販売・消費・使用後までのライフサイクルアセスメント（商品の一生）を通じて、多くのエネルギーが使われています。そのエネルギーの多くは化石燃料から得られているので、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを大気中に排出しています。



この排出されたCO₂など温室効果ガスの量を数字とマークで表して「CO₂の見える化」を図ったものが、カーボンフットプリント、CO₂の足跡です。できるだけ数値の少ない商品を製造・販売し、そしてお客様に購入していただくことで地球温暖化を防止しようという取り組みです。

カーボンフットプリントの算出

商品の原料の採取・生産・流通・販売・消費・廃棄やリサイクルまでのライフサイクルアセスメントの各段階で排出される温暖化効果ガスが大気中にどのくらい排出されるのかをCO₂換算して、数値で表したものがカーボンフットプリントです。

ユニーでは、2008年度に行われた「カーボンフットプリント制度試行事業」に参加して、環境配慮商品「ecolon」のトイレットペーパーのカーボンフットプリントを算定しました。





東日本大震災・原子力発電所被災以降の消費電力削減対策

3月11日の東日本大震災の発生により、電気・ガス・水道などのライフラインが不通になり、特に首都圏では公共交通機関がマヒして、多くの人々が通勤難民となってしまいました。また、原子力発電所の事故が重なり「計画停電の実施」など、電気の安定供給ができないという、一般生活だけではなく工業生産やその他事業活動などにも影響を及ぼす結果となりました。

今まで当たり前のように使っていた「電気が使えない」ということではなく、「使わなくてもよい生活」にライフスタイルを転換していくことが大切です。地球温暖化防止のためにも、いかに節電・省エネを実施していくかが、企業の大きな課題になります。

ピーク電力15%削減のエコ・ファーストの約束

2011年5月18日、環境省でエコ・ファースト企業28社が一同に集い、環境大臣にピーク電力15%削減を約束しました。この約束は、お客様と一緒に節電する項目と、店舗施設の活用についての項目から成っています。

ユニーは小売業として唯一この約束に参加しましたが、メーカー各社と異なり、自社の都合や計画だけで対応できるわけではなく、お客様のご協力や出店しているテナント各店との協働で進めていかなければなりません。店舗の照明や空調温度設定など、来店されたお客様にご理解いただきながら、節電対策を進めています。



「節電ライフ」を説明する
前村社長



環境先進企業であるエコ・ファースト企業はいち早く節電計画を発表



東京電力・東北電力供給地域の店舗では
ショーケースの照明を消灯



愛知県稲沢市の本社事務所では、
従来より必要な照明だけを点灯（昼休み）

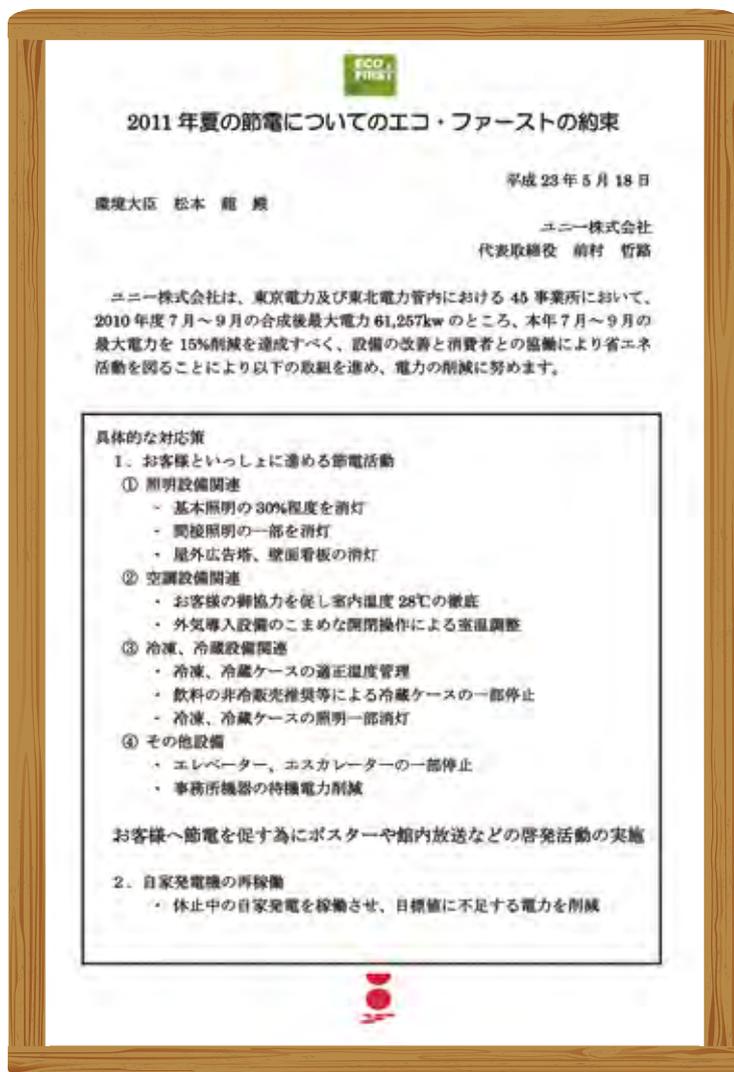
お客様の家庭での節電対策

原子力発電所停止による電力供給量の減少や夏のピーク電力時の停電への心配から、節電への関心は企業活動だけではなく、家庭やオフィスなどでも高まっています。そして昨今の気温上昇やゲリラ豪雨など異常気象の原因といわれる温暖化ガスの排出抑制のためにも、自ら節電しようという市民が「自分達にできることから」と努めているからです。

ユニーはお客様に節電ライフの情報を伝え、役に立つ商品の提案をパンフレットにして配布しました。



「節電ライフ」パンフレット



節電の約束

2011年夏の節電についてのエコ・ファーストの約束

平成23年5月18日

環境大臣 松本 龍 毅

ユニー株式会社
代表取締役 前村 哲路

ユニー株式会社は、東京電力及び東北電力管内における45事業所において、2010年度7月～9月の合成後最大電力61,257kwのところ、本年7月～9月の最大電力を15%削減を達成すべく、設備の改善と消費者との協働により省エネ活動を図ることにより以下の取組を進め、電力の削減に努めます。

具体的な対応策

1. お客様と一っしょに通める節電活動

① 照明設備関連

- 基本照明の30%程度を消灯
- 間接照明の一部を消灯
- 屋外広告塔、壁面看板の消灯

② 空調設備関連

- お客様の御協力を促し室内温度28℃の徹底
- 外気導入設備のこまめな開閉操作による室温調整

③ 冷凍、冷蔵設備関連

- 冷凍、冷蔵ケースの適正温度管理
- 飲料の非冷蔵売場等による冷蔵ケースの一部停止
- 冷凍、冷蔵ケースの照明一部消灯

④ その他設備

- エレベーター、エスカレーターの一部停止
- 事務用機器の特権電力削減

お客様へ節電を促す為にポスターや館内放送などの啓発活動の実施

2. 自家発電機の再稼働

- 休止中の自家発電を稼働させ、目標値に不足する電力を削減

環境配慮商品

地球温暖化を防止し、持続可能な社会を構築していくために、毎日のお買い物に「環境負荷が少ない」という視点で品選びしていただくことも大切です。ユニーでは原料や製造過程、容器包装、使用時の環境負荷を低減した商品をお客様に購入していただくことが地球環境を守ることに繋がると考え、そうした商品の品揃えや商品開発に努めています。

環境に配慮したオリジナル商品「ecolon」(エコオン)

ユニーはPB(プライベートブランド)・SB(ストアブランド)商品を開発するうえで、特に環境に配慮した商品をサブブランド「ecolon」(エコオン)として、パッケージやタグにこのロゴを付けて販売しています。審査は、「ecolon」申請書と添付資料をもとに行い、特に商品開発担当者の「環境配慮への思い、ストーリー」についても審査します。その思いには、「現在だけではなく未来の地球環境に対する責任」や「購入していただくお客様へのメッセージ」「生産者のこだわり」などが入っています。また、生産現場や製造工程を視察し、審査します。

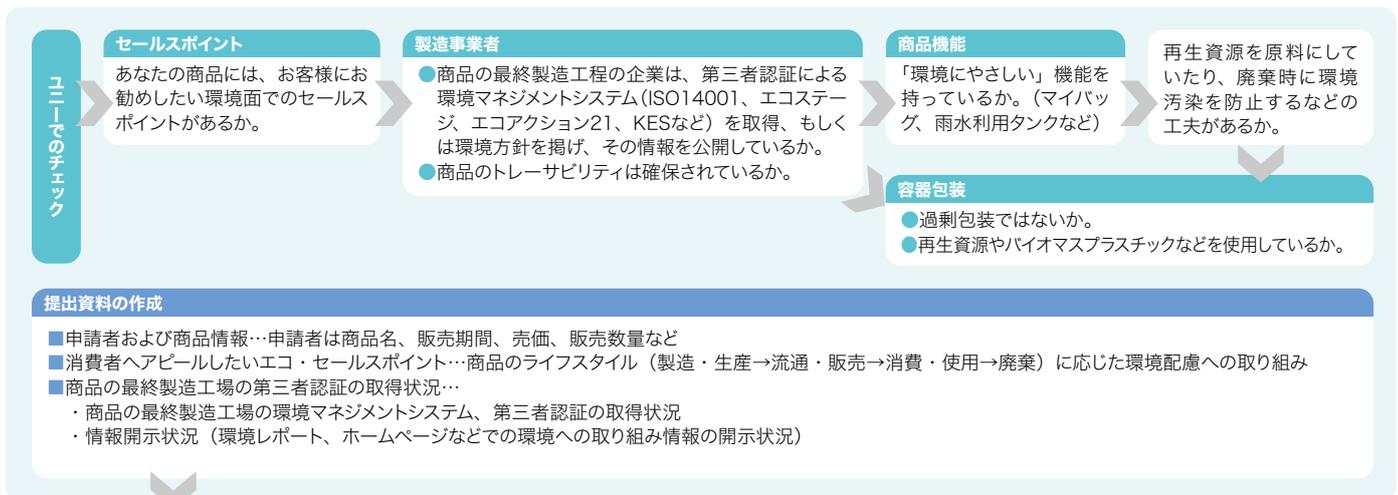
「ecolon」の考え方

「ecolon」は、環境負荷の少ない安全安心な商品を提供することにより、お客様の快適な生活を支援し、持続可能な社会構築をお客様と一緒に推進していくことを目指しています。また、環境配慮商品を生産する生産者を支援します。

- 1 お客様と一緒に育てていく環境配慮型商品です
- 2 ユニーが定める品質基準を満たしています
- 3 ユニーが定める環境に配慮した生産条件を満たしています
- 4 「ecolon」第三者審査委員会が審査を受け認定されています(毎年見直しを実施)

「ecolon」商品が販売されるまで

商品部の商品開発担当者がオリジナル商品を開発し、環境配慮商品「ecolon」の認定を受けるため、商品やメーカーに関する情報や認証などの資料を添えて、第三者審査委員会に提出します。



第三者審査委員会へ提出

評価・認定を受けた商品のみ「ecolon」(エコオン)として販売!

「ecolon」の商品

特別なものではなく、日常生活に欠かせない商品を環境に配慮したものにすることで、地球環境保全に貢献していることとなります。「ecolon」は、たくさんのお客様と一緒に低炭素社会・持続可能社会を築いていくことを目指しています。

このタグが目印です!



●アローザトイレットペーパー
リサイクルボックスで回収した牛乳パックが原料



●マグボトル
何度も繰り返し使用できるのでゴミを出さない



●特別栽培の無洗米
お米を研がないため河川を汚さない



●カルキュロ エコ紳士用ドレスシャツ
使用済みペットボトルが原料



●泡のハンドソープ
店舗から出た使用済み食用油が原料



●さとうきびうまれのプレート・ボウル
木材を使わないでさとうきびから作ったボウル



●洗濯洗剤
植物原料の使用は大気中のCO₂(※)の増加抑制に貢献
※1990年当社商品に比べCO₂排出量を51%削減



●モリゾー・キッコロ ショッピングバッグ
レジ袋を使わないためのショッピングバッグ



第三者審査委員会

「ecolon」の認定は、社内審査だけでなく、専門家や有識者の方々による第三者審査委員会で審議していただいています。審査基準を満たした商品だけを「ecolon」として販売しています。



第三者審査委員の先生方

エコプロジェクトに参加して

株式会社コゴ 代表取締役社長 山村真一

今、日本は東北の災害から生活の基軸が大きく変わりつつある。安心、安全、エネルギー、資源、幸せや豊かな生活感等、従来、是とされた概念が原点から見直されている。戦後65年間は、生産する人々の視点に立ったものであったのだろう。これからは、新しい生活概念から生まれた感性や、新しい時代に求められる提案が企業の格を決めることになるだろう。生活する人々の視点に立つエコプロジェクトは、これからの商品計画に大きな役割を果たすことになるだろう。このプロジェクトに参加できることはとても意味深く、重大な責任を感じるとともに、未来の環境や生活提案に参加するというデザイナーとしては誠にやりがいのあるプロジェクトといえる。

持続可能な社会を構築する姿勢

財団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 石崎美英

消費者・生産者そしてユニーの3者が協力して「ecolon」商品を開発・販売することにより、持続可能な社会を構築しようという姿勢を評価したいと思います。使えば使うほど環境にやさしい商品が増えることは、未来の地球環境にも現在の私達にとっても嬉しいことであり、生産者やユニーにとっては企業の発展につながるようになります。すべてのステークホルダーの満足が得られるような企業経営のあり方を今後も継続してほしいと応援しています。

環境対応化した日常生活を応援

名古屋大学 情報文化学部環境学研究所 教授 佐野充

地球の直径が1mならば、私達が生きている空間の厚みは1mmになります。スペースシャトルの飛ぶ宇宙は5cmの高さになります。私達は、日常の生活も動くことも将来もこのわずか1mmの空間で暮らさざるを得ません。環境との共生は当然であり、環境対応化した日常こそが私達の真の姿です。「ecolon」が、環境対応化した日常生活を実感できるように応援したいと思います。

消費者からの応援

従来、品揃えや商品開発は、メーカーと小売業が担い、「買う側」である消費者の意見や要望がなかなか反映されていませんでした。ユニーも開発担当者が環境配慮への思いを込めてメーカーと取り組み、製造した商品を販売していました。ところが期待どおりに販売数が伸びないことがありました。そこで、「買う側」である消費者と商品開発担当が一緒に考え作り上げ、他の消費者に伝える活動を行いました。

今後はさらに、「どんな商品を開発してほしいか」「作り上げた商品の使い勝手はいかがか」「他の消費者に伝えるにはどうしたよいか」など、ユニーと一緒に「ecolon」の開発を応援していただきます。

おかいもの革命!リサーチャーズクラブ

消費者がお買いもの中で感じている素朴な「?」や「あったらいいな!」というアイデアを持ち寄り、お店と一緒に考え・実現する場として「おかいもの革命!リサーチャーズクラブ」がアピタ千代田橋店を拠点に活動を行っています。



担当バイヤーとミーティングで日頃の疑問や要望を直接出し合う



地元産の旬の野菜のオリジナルPOPを売場に設置



PB商品は実際に使用した感想をPOPにして消費者仲間に情報提供

ecolon開発の考え方

開発にあたり、以下の事を考慮し進めています。

1. ecolon商品がユニー様にとって 企業価値を上げるブランドであること
2. ecolon商品がお客様にとって圧倒的な存在感をもって受け入れられること
3. ecolon商品が開発者、販売者にとって、誇りがもてること
4. ecolon商品が住関本部に利益をもたらすこと



住関本部
商品企画開発部
菅野誠一

商品が一次機能を満たすだけなら、お客様は価格で選択します。ecolonブランドを育てることで、「ユニーの環境の考え方」「お客様の求める環境スタイル」などが価値となり、お客様に選択されるブランドになっていくと思います。まだまだ、開発途上ですが、今後も価値ある商品の開発を進めていきたいと思っています。

新商品キッチンタオルの商品開発

「牛乳パック生まれのキッチンタオル」について私が商品開発したキッチンタオルが、ecolon第三者審査委員会の審査を通り、販売されることになりました。このキッチンタオルは回収した牛乳パックを原料に使うことで、環境保全・高品質・安全を同時に実現しました。牛乳パックは再生紙でありながらパルプと同等の上質原料であり、使用感や安全性はパルプ100%の商品と同等です。さらに生産ロット毎に食品衛生試験および蛍光剤反応試験を実施し、安全性を補完しています。



住関本部
商品開発部バイヤー
千葉哲志

イイことカフェ

マイecolonマグボトルをアピタの喫茶・飲食テナントの協力店に持参して、コーヒーやお茶などを入れて（有料）もらえるサービスを実施しています。マグボトルの飲み物を飲み終わっても補充することができ、保温効果が高いので、熱いものは熱く、冷たいものは冷たく、適温で飲むことができます。



環境負荷

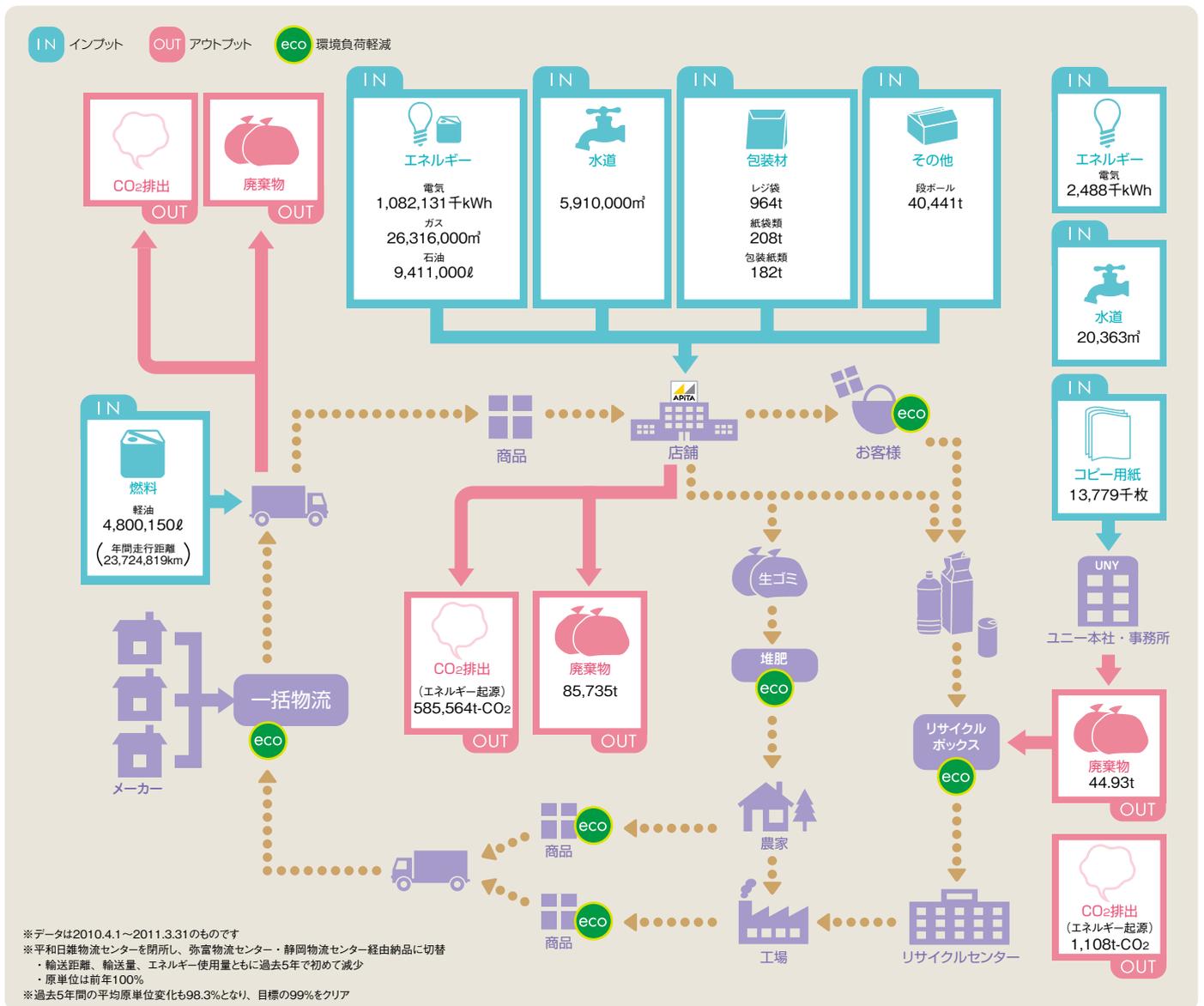
企業活動は、電気やガス・石油などのエネルギーを使いCO₂などの地球温暖化効果ガスを排出するなど、地球環境に影響を及ぼします。これを環境負荷といいます。

環境負荷をできるだけ出さないよう、継続的に軽減していくために、その原因を調べ対策を考え行動することを、従業員や関係者がそれぞれの役割のなかで実践しています。

事業活動における環境負荷

ユニーにおける環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。照明や空調、食品売りの冷蔵冷凍庫などで電気やガス・石油などのエネルギーを使います。商品の輸送や保管する倉庫などでも多くのエネルギーが必要です。エネルギー使用に伴い、地球温暖化の原因といわれているCO₂などを排出しています。それ以外にも店舗から排出する廃棄物や、お客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も環境負荷の大きな原因になっています。

ユニーではこれらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。



業務本部 システム物流部
物流担当部長 村井秀紀

環境負荷の低減に向けて、物流においては、商品を輸送する時にはできるだけ燃料を使用しない (=CO₂の削減)、オリコン (通い箱) 納品の拡大 (=ダンボールの削減) に取り組んでいます。2010年度は、平和日雑物流センターを閉所し、弥富・静岡物流センターに統合、その結果、輸送距離は前年比97.5%、輸送量は前年比97.8%・エネルギー使用量は前年比98.2%といずれも減少し、過去5年間の平均原単位変化も98.3%となり、目標の99%を達成できました。

また、オリコン納品を全エリアに拡大、対象カテゴリーも拡大させ段ボール削減に貢献することができました。今後もさらなる環境負荷低減に向けて取り組んでまいります。



省エネルギー・省資源活動

2011年夏の節電に関するエコ・ファーストの約束

2011年3月に起きた東日本大地震で福島原子力発電所が崩壊し関東・東北の電力量が低下、夏のピーク時の電力を抑えるために、エコ・ファースト企業が節電目標を環境大臣に約束しました。

お客様と一緒に節電

節電活動は店舗だけでなく、お客様の家庭でも節電に取り組んでもらえるよう活動しています。ユニーでは日常生活の工夫や省エネの提案を「節電ライフ」という冊子にして配布しました。特に気温の高い夏を、生活の知恵や省エネ商品で乗り切る提案をしています。省エネライフで節電しながら暑い夏を乗り切るヒントを掲載、節電を応援しています。



バックヤードの照明

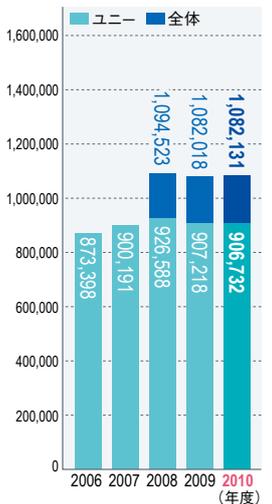
「必要な場所で必要な時だけ点灯する」と、店舗のバックヤードや事務所の電灯にはプルスイッチ（紐）をつけています。特にバックヤードには、作業や設置場所の状況を調べ、一つひとつのスイッチに「常に点灯」「必要な時だけ」を表示しました。



エネルギー使用量の推移

※データは、各年度とも当年2月21日～翌年2月20日までのもので、2008年度より旧ユーストアとの合算数値になります。

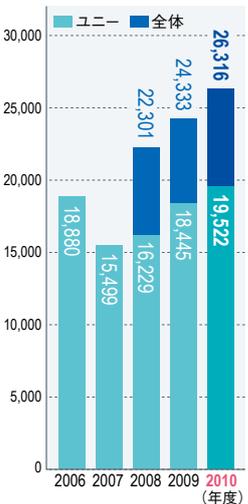
●電気 (単位:千kWh)



●水道 (単位:千㎡)



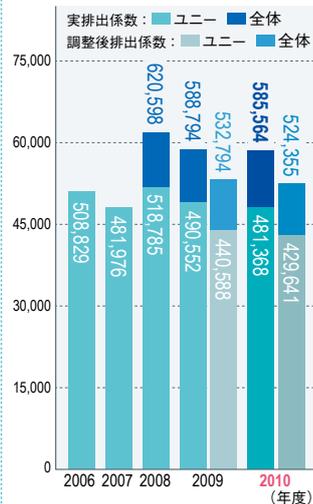
●ガス (単位:千㎡)



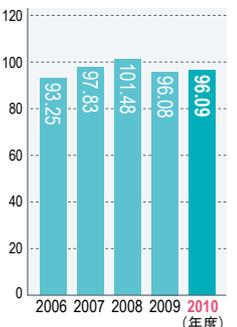
●石油 (単位:千リットル)



●二酸化炭素排出量 (単位:t-CO2)



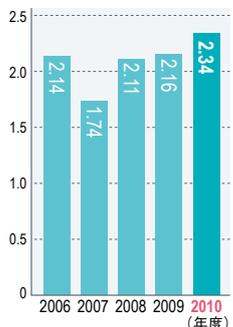
単位面積時間当たりの使用量 (単位:W/H.m)



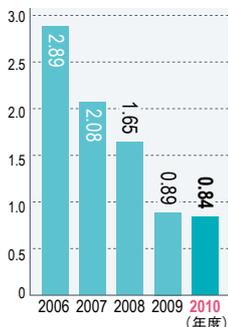
単位面積時間当たりの使用量 (単位:リットル/H.m)



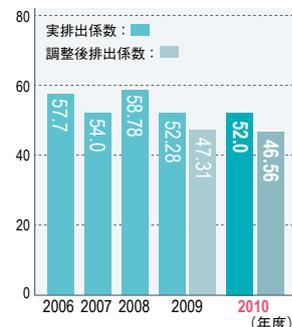
単位面積時間当たりの使用量 (単位:リットル/H.m)



単位面積時間当たりの使用量 (単位:cc/H.m)



単位面積時間当たりの使用量 (単位:gCO2/H.m)



新規出店の店舗には「エコストア」として高効率省エネ機器を導入、既存店には冷温水インバーターや電子安定器などを導入しましたが、猛暑の影響により全体使用量は減少しませんでした。

猛暑により水道使用量が増加しました。今後は節水トイレの採用や雨水利用などにより、水道水の使用制御を図ります。

石油からガスへのエネルギー転換を図ったことにより増加しました。

石油からガスへのエネルギー転換を図ったことにより減少しました。

石油使用量の減少がCO2排出量削減の大きな要因となりました。

■2008年にユーストアと合併し、店舗数が増えました。

2010年度のCO2換算係数は下記より換算しました。

電気…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO2排出係数(2009年度実績)(平成22年12月27日公表)
 水道…独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO2排出原単位の算定根拠」(環境省推奨)
 ガス・石油…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成22年3月改訂後)

生物多様性 [自然共生社会を構築するために]

2010年10月、愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されました。愛知県に本社があるユニーは、「テーブルの上の生物多様性」をテーマに、日常生活を通じてお客様と一緒に自然共生社会の構築に取り組んでいます。

いのちと暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間も含めた様々な生物が生まれ、つながり合って生きてきました。この生物多様性がもたらす恵み（生態系サービス）によって、私達の命や暮らしは支えられています。

しかし現在世界中で多くの生物種が絶滅の危機に瀕しています。生物種の減少の原因のほとんどが開発や乱獲、外来種の持ち込みなど、人間の活動にあるといわれています。人間は、地球生態系の一員としてほかの生き物との共存を求められているにもかかわらず、一方的に生き物に影響を与え、絶滅の危機を引き起こしているのです。

種の多様性

いろいろな生き物がいること

生態系の多様性

様々な環境があること

遺伝子の多様性

それぞれの種の中でも個体差があること

生物多様性の保全活動

● 生物多様性条約 第10回締約国会議（COP10）

生物多様性条約締約国会議は、条約を結んだ国が約2年ごとに集まり、生物多様性を守り、それが絶えることなく存続するための仕組みや遺伝資源の利益を公平に分ける仕組みなどが話し合われます。COP10は2010年10月11日から29日までの3週間名古屋市で開催され、成果を上げることができました。

● 名古屋議定書

私達の生活には、医療品をはじめとして生物の機能や形状を利用した製品が数多くあります。これらの開発で得た利益をその遺伝（生物）資源の原産国に公平・均衡に配分するという、国際ルールが名古屋議定書です。未開発地域や途上国の資源、伝統知識を先進国が一方的に利用してきたことへの是正となるものです。

● 愛知ターゲット

2020年に向けて、生態系の保全を中心とした目標として、生物多様性の失損速度を抑えるための具体的な数値も決めています。生物多様性の認識を高め、持続可能な産業を促進し、絶滅危惧種の中でもっとも減退している種の保全状態を改善していくことを目的に、「悪化した生態系の15%以上を回復すること」「陸地については17%」「海域については10%」の保全を明記しています。

生物多様性を守る取り組み

私達が生きるために必要な酸素は植物によってつくられ、汚れた水も微生物などによって浄化されています。そして私達人間は、いろいろな生き物からの様々な「恵み」をもらって生きています。こうした「恵み」を与えてくれる「生物多様性」を育む環境で作られた食べ物や製品を選ぶことが「生物多様性」を守ることに繋がります。ユニーでは、お客様が買い物をする事で生物多様性を守ることに繋がる取り組みを「供給作用」を通して行っています。

サポート

- 生息地
- 栄養
- 水
- 土壌の形成

緩和作用

- 気候変動を緩和
- 害虫・病気・汚染を制御

供給作用

食料・繊維・燃料・淡水・遺伝子・資源の供給

文化的効用

精神・宗教的価値・知識・教育・インスピレーション・レクリエーションや美しいものの提供

エコ野菜



サスティナブルコーヒー

バイオマスプラスチック



リサイクルトイレットペーパー



サスティナブルコーヒーフォーラム

COP10協賛事業として、2010年10月「サスティナブルコーヒー協会」と協働で名古屋市で開催しました。コーヒーの原産国は途上国が多く、さらに生物多様性が失われつつある地域が多いため、生産地の生物多様性を保全しつつコーヒーを栽培し続けるために、消費者である私達が「サスティナブル（持続可能な）コーヒー」を選んで飲むことが支援につながります。サスティナブルコーヒー協会は「サスティナブルコーヒーの普及に貢献し、コーヒーを通じて生産国の自然環境・社会経済のサスティナビリティの維持向上に寄与する」ことを掲げているNPOです。



世界の環境団体がコーヒーを通じて環境貢献を発表



おいしいサスティナブルコーヒーの試飲を会場で実施



COP10協賛事業「テーブルの上の生物多様性」

ユニーは売り場に並んでいる食品も「生物多様性」につながっていることを、お客様や従業員に知ってもらい、身近なものにしてもらうために「テーブルの上の生物多様性」をテーマにしました。「私達の毎日の食べ物は生き物の命」ということを伝え、自然環境や、そこで生きる生物を大切に守りながら生産した食べ物を選ぶことが、生物多様性に貢献できるのだということを知ってもらうために店舗でイベントを開催しました。

テーブルの上の生物多様性

～毎日のテーブルの上にある食べ物は「生物多様性」の恵み～



母牛が子牛のためにつくったお乳を分けてもらいます。

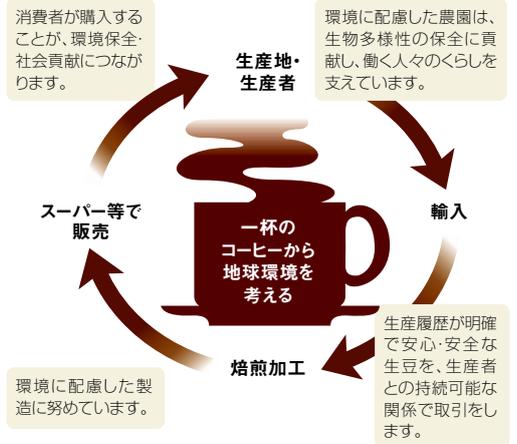
食品リサイクル～命をつなぐ環

食べられなかった食品残さを原料にした堆肥を使い、微生物やミミズが生きている健康な土壌で野菜や米が育てられています。



サステナブルコーヒー

熱帯雨林の下で栽培するシェイドグロウン農法。ジャングルの木陰で育てたコーヒーは、虫やカエルの生きているジャングルの環境を守ります。



「テーブルの上の生物多様性」COP10に参加

COP10開催地である愛知県・名古屋市では、COP10開催中に会場周辺などで一般市民と交流活動が行われました。ユニーの生物多様性のテーマである「テーブルの上の生物多様性」のイベントをこうした会場で開催し、一般市民の方にも参加しやすい活動を行い、COP10に協賛しました。



生物多様性交流フェア 環境紙芝居を実施



メッセなごやにて一般市民参加型イベントを開催



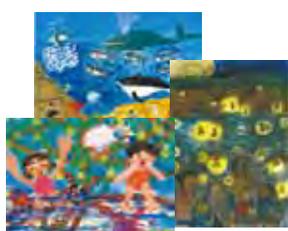
地球いきものEXPOいきもの折り紙を開催

エコロキッズプロジェクト

「エコロキッズプロジェクト」は名古屋で開催されたCOP10のパートナーシップ事業として、ユニーと朝日新聞社が共同で立ち上げた環境プロジェクトです。「地球の未来を担う子どもたちのための環境教育」をテーマに、子供達がキッズリポーターとして参加する「干潟の動きを知ろう!」藤前干潟の体験教室や、さかなクンと一緒に学ぶ環境イベント「大切にしたい! 自然といきもの」をテーマにした絵画コンテストなど、一年を通して、子供達が環境について考え、自らの問題として取り組んでいくことを目的としています。



エコロキッズ体験教室 藤前干潟



「大切にしたい! 自然と生き物」絵画コンクール



さかなクンといっしょに環境イベント

森の町内会

「環境レポート2011」に3.5トンの間伐材から作った紙を使うことで、長野県駒ヶ根市で0.2haの間伐を促進することができました。森の町内会は、森と企業をつなぎ、間伐と間伐材の有効利用に取り組み森林保全を推進するシステムです。



保全されている森林を視察

子供環境学習 [環境について学ぶための取り組み]

現在のことだけではなく未来のことも考え、未来の子供達そして地球の生き物達のために、美しい自然を残していくこと。それが持続可能な環境学習の目的です。地球温暖化を防止すること、資源を大切にされた循環型社会をつくること、そして地球の生き物が共存していくことのできる「持続可能な社会」の実現は、子供達が担っていくことになります。次世代を担う子供達に、毎日の生活の中でできることを考え、実行していくことを環境教育を通して伝えます。

ユニーは、持続可能な社会をつくっていくために、身近なユニーの店舗や循環型農業、リサイクル工場や大自然のなかで環境学習を実施しています。

循環型農業体験

- 食品廃棄物から再生資源になる過程の見学
- 循環型農業で収穫体験
- いろいろな生き物と一緒に生きていくことを学ぶ
- 畑の恵みをいただく

エコロお店探検隊

- 環境にやさしいお買い物
- 廃棄物をリサイクルする仕組みの見学
- バリアフリーなお店の見学
- 廃棄物を使ったエコ工作

夏休み自然探検隊

夏休みに白川郷の自然のなかで体験学習

地元NPOや地元企業との コラボレーション

地元のたくさんの人々から学ぶ

リサイクル工場見学

廃棄物が再生利用される現場を見学

インタープリター養成

お店探検や農業体験、自然探検で子供達の案内役（インタープリター）を行ってくれる人材を育成

循環型農業体験

私達の毎日の食卓に並ぶ食物は、どのように作られているのか。ユニーの推進している食品リサイクルの仕組みを見学したり、田植えや収穫体験を通して「たくさんの生き物と一緒に生きていること（生物多様性）」や「食べ物を大切にすること」を学びました。

JAあいち海部での農業体験

JAあいち海部のエコ部会では食品リサイクルで作った堆肥を使い、野菜や米を生産しています。店舗で募集した子供達やその家族と一緒に田植えや稲刈り、芋ほりなどの農業体験を実施しました。稲刈りしている田んぼでバツタを見つけました。

三功・酵素の里の農業体験

三功・酵素の里では、ユニーから排出された食品残さから堆肥を作り、その堆肥を使って循環型農業を一貫して行っています。収穫体験を通して「よい土から美味しい野菜が取れる」を感じてもらいました。堆肥製造過程での臭いや熱を感じ、微生物が堆肥を作るところを体験しました。



稲刈り



バツタ採り



堆肥場



芋ほり

2010年度、たくさんのお店で環境学習を実施しました!





エコロお店探検隊

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」も、2010年には50回開催できました。「いつも買い物に行く『アピタ・ピアゴ』のお店には、いったいどんな秘密がかかれているんだろう」。案内役の店長を先頭に小学生達が、お店で行われている環境保全活動や環境にやさしいお買い物を見学したり、エコ工作などを体験するプログラムです。

楽しみながら環境問題に興味を持ち、毎日の生活で「今できること」を実践してもらうきっかけづくりをしています。

リサイクルの秘密を知ろう

地球にやさしいお買い物

お店の裏側を探検しよう

エコ工作にチャレンジしよう

「エコロお店探検隊」環境学習

1 使い終わった容器の行方を見学

●リサイクルステーション

家庭から排出される容器包装を店頭回収しているリサイクルステーションを見学。リサイクルすればゴミではなく、再生資源として活用されることを学ぶ。



2 店舗から出るゴミの行方を知る

●廃棄物庫

店舗から出るゴミは細かく種類を分別し、計量・保管している店舗の裏側を見学。リサイクルの仕組みと「混ぜればゴミ」「分ければ資源」という分別の大切さを学ぶ。



3 環境にやさしいお買い物

●店内

「環境にやさしく」という意識を持って買い物をすることが、自然を守ることにつながることを体験。「ecolon」商品や環境配慮商品を売場で探したり環境ラベルの意味を学ぶ。



6 私達にできること

●認定証と記念品

毎日の生活の中で「地球環境のために自分ができること」を発表。最後に認定証の授与と記念撮影。



5 リサイクル工作を体験

●工作体験

使わなくなったものを材料にしたリサイクル工作を体験。捨ててしまえばゴミになるけど、工作に使うと新たな作品に生まれ変わることを実感。



4 ゴミを減らす取り組み

●果物売場

店舗で使用しているフルーツカップがトウモロコシから作られたバイオマスプラスチックであることを紹介。



●バックヤード

商品を運ぶときは、段ボールの代わりに繰り返し使用できる「オリコン」を使用していることを見学。



夏休み自然探検隊

2005年からトヨタ白川郷自然學校で夏休み自然探検隊を開催しています。2010年は、「ぼくたち、わたしたちの『環境にイイことプラス!』なエコかるた」に応募した小学校4年生から6年生の24名が、世界遺産白川郷の自然と先人達の知恵を見たり体験してきました。

in トヨタ白川郷自然學校

第6回 夏休み自然探検隊

2010年7月29日～31日

1日目



世界遺産、白川郷合掌造りの前で記念撮影



合掌造りの家の中には昔の人の知恵がいっぱい!



生き物を探して写真撮影



真っ暗な電気のない世界で、森の音や臭いを感じました



イギリス式のテーブルマナー講習

早朝の森の中を探索

2日目



電気はどうやって作るの?小川で水車をまわして、水力発電



お揃いのTシャツを着てみんな仲良し



未来のエネルギー、水素電池で電気自動車の模型を走らせました



使わなくなった蚕のまゆからタペストリー作りに挑戦



田んぼで泥染め

3日目



森へ昆虫採集、たくさんの昆虫が住んでいたよ。捕まえた後は、また森へ返してあげました



森で隠らすリスや野ネズミがかじったクルミや松ぼっくりを発見



森からドングリの芽を分けてもらいました。大きく育ててまた森へ返しに行きます





地元NPOや地元企業とのコラボレーション

地元NPOとのコラボレーション

ユニーの店舗の近くで活動しているNPOと一緒に、環境学習を実施しました。ユニーは店舗を環境活動の場として提供し、NPOの協力により自社ではカバーできない多様なプログラムを実施しました(岐阜県・福井県・石川県・富山県)。



金沢エコライフくらぶ



NPOエコネットふくい

地元NPOや地元企業とのコラボレーション

ブラザー、東邦ガス、中部電力など地元企業と共催で環境学習を実施しました。店舗を会場に、それぞれの企業のプログラムをお店探検と組み合わせて、「毎日の生活の中でできる環境によいこと」を学びました。参加した子供達にも好評でした。

ブラザー

親子モノ創り環境教室をアピタの店内で実施し、最新機種でエコバッグを作りました。ブラザーの社員が先生になって、ものづくりの楽しさを親子で体感しました。



東邦ガス

「環境にやさしいお買い物」で購入した食材でエコクッキングをしました。



中部電力なちゅらるスクール

お店で売っている地元で採れたもの、作られたものを探して、いろいろな商品が売られていることを知りました。



リサイクル工場見学

中央化学 (トレイリサイクル工場)

店舗で回収したトレイをリサイクルしてベンチを作る工場を見学しました。



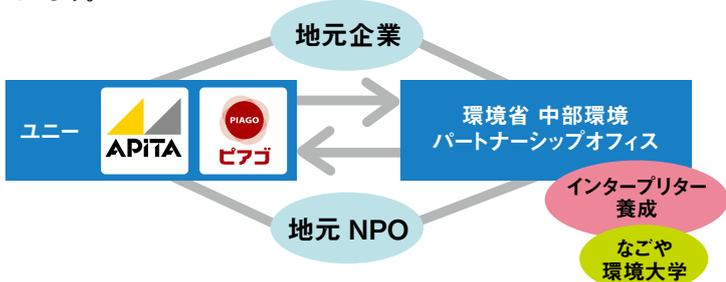
三功 (廃棄物リサイクル工場)

廃棄されたプラスチックや発泡スチロールなどをリサイクルする様子を見学しました。



インタープリター養成

市民講座「なごや環境大学」で「お店探検インタープリター」を養成しています。環境にやさしいお買い物やリサイクルの仕組み、環境配慮商品などの理解を深め、子供達のお店探検の案内役になってもらう人を育成しています。



インタープリテーション「伝え方」を学ぶ



COP10市民交流会場内で「生物多様性」を伝えるワークショップ

ユニーの食育について

心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げて取り組まれている食育。

ユニーでは、皆様の「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。

子供達の「食」への興味・関心を育て、親子や親しい人同士で食の楽しさを発見・実感するきっかけになるよう、「おいしく」「たのしく」をモットーに、さまざまな食育活動に取り組んでいます。

ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子供から大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身に付け、おいしく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組みます。



たべものがたり

食材の旬・生まれ・栄養素・調理方法や昔ながらの伝統食など、親から子へ語り伝えていきたい食の物語を「たべものがたり」と名付け、皆様にわかりやすくお伝えしていきます。

ユニーの食育理念

私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。

ユニーの食育方針

- 1 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 2 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 3 食材のルーツをたどることにより食べ物を大切にする心を養います。
- 4 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。

あいち食育サポート企業団の設立

地元愛知の健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、「あいち食育サポート企業団」を結成し、愛知県や関係団体等と連携・協働して食育を推進しています。その活動が認められ、2008年には「地域に根ざした食育コンクール」で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞しました。店頭を中心としたイベント活動の他に、2010年には、愛知県とともにドアラを食育大使に任命、また2011年には愛知県に食育絵本110冊を寄贈するなどし、県民に広く食育を啓蒙しています。



「地域に根ざした食育コンクール2008」にて農林水産大臣賞（最優秀賞）を受賞



愛知県とともにあいち食育大使にドアラを任命



「おうちでごはんの日」や「早寝早起き 朝ごはん」運動の普及、日本型食生活の良さ・地産地消の啓発、食の体験活動の充実などを推進しています。



愛知県図書館に食育絵本を寄贈



愛知県と共催で食育講座を実施



愛知農林水産フェアで食育イベントを実施



毎月加盟企業による店頭イベントを実施



店舗を中心とした食育活動

企業との食育への取り組み

料理教室や、店内のイベントを通じて、皆様に「食」についての関心を持っていただくために、食品関連企業や各種団体と共同で、食に関するさまざまなイベントを開催しています。



5ADAY (ファイブ・ア・デイ) 食育体験ツアー

「1日5皿分(350g)以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとした活動を推進しています。



学生との食育への取り組み

大学や専門学校の学生と、食育まんがやイベントなど、お子様にも分かりやすい食育活動に取り組んでいます。食育における学生とお子様の「共育」推進も目的としています。



ふれあいクッキング

お客様に食材の「おいしさ」「栄養」「使い方」を実感し、よりよく知っていただくために、店舗で料理教室を行っています。



生産者との食育への取り組み

お客様が農産物の栽培から収穫までを生産者とふれあいながら体験することにより、売場の野菜・果物を身近に感じていただくことも大切な食育のひとつと考えています。



クッキングワゴン

栄養士が健康を考え、旬の食材を使ってレシピを提案する店頭でのライブクッキングコーナーを開催しています。



ホームページ

私たちにとって、一番身近な「食」に関するさまざまな「こと」を紹介するサイトです。旬の食べ物を食卓に取り入れる方法や栄養士が考える健康&簡単「からだにイイことレシピ」、食物栄養学科の学生と協力して作った「食育まんが」など、さまざまな情報で日々の食生活を応援しています。また、店頭などで行った食育イベントレポートも順次アップしています。

ユニー たべものがたり

検索



<http://www.uny.co.jp/tabemonogatari/>

ピック・アップ・ エコストア

地球温暖化防止を目指し、
ユニーでは省エネルギー設備を設置し、
さらに従業員をはじめ、お客様や取引先など
関係する人たちと一緒に
環境活動を進める「エコストア」を開店しました。

ヒルズウォーク徳重ガーデンズ

緑豊かな明日のために

地域との共存、自然との調和を第一に考え、美しく豊かな環境を想い・育て、未来へとつながるように、屋上緑化やリサイクル資源の活用、省エネルギー推進など、多種多様なエコスタイルに取り組んでいます。



環境にやさしい店づくり

エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO₂) 排出量の削減に取り組んでいます。また、リサイクルステーションの設置 (ゴミの分別、少量化、リサイクル等) や限られた資源を有効に使う配慮、ECOインフォメーションにより環境への取り組みの啓蒙活動などを行っています。



●**壁面・屋上緑化**
外壁に壁面緑化を導入。ヒートアイランド対策と断熱効果があり、建物の温度上昇を抑え空調使用量の削減にもなります。



●**太陽光発電**
太陽光パネルを導入。太陽の光で電気をつくり、得られた電力を施設内で使用することにより省エネを図っています。



●**街灯**
太陽光発電型街灯を採用。日中に集められた光で夜間市街地を明るく照らし、省エネルギーでCO₂削減効果があります。



●**トップライト**
トップライトに2重のガラスを採用。夏は太陽の陽射しを抑え、冬は室内の空気を逃さない保温効果があります。



●**ECO床材**
外構の床材料に、採石廃土・廃ガラスなどのリサイクル原料を使用。使用資源を削減し環境負荷を軽減しています。



●**ECOウッドルーバー**
木材とプラスチックのリサイクル資材を使用。環境負荷が少なく、見た目にも涼しげで、遮光性にも優れています。



●**井戸水**
芝生や植栽の散水に井戸水を利用。省エネルギーで上水使用量の削減を行います。



●**照明**
通路の間接照明やトイレなどの施設内照明の一部にLEDを使用。長寿命で交換も少なく電気使用量を抑える効果があります。



●**トイレ**
少ない水でも洗浄できる節水型のトイレを採用。少ない資源で環境負荷を抑え、CO₂削減にもつながります。



●**空調**
空調熱源に電気式ターボ冷凍機を採用しています。省エネルギーでCO₂排出量を削減します。



ひとにやさしい店づくり

バリアフリーの認定を受け、ご高齢の方、お体の不自由な方、小さなお子様連れの方にも、安心してご利用いただけるように「人にやさしいお店づくり」に取り組んでいます。



●キッズパーク

小さなお子様楽しく遊んでいただけるように、遊びのスペースを設置。



●ドッグラン

ガーデンテラス（ガーデン棟屋上）内に無料ドッグランを併設。



●防災ベンチ

災害時に備えて、ガーデンテラスに炊き出しかまど付ベンチを設置。

ピオニウォーク東松山

ともに発見、ともにしあわせ

お客様の「希望」「願い」「理想」が形になる、常に楽しさのあるショッピングセンターを目指します。



●空調関連

空調熱源を電気式ヒートポンプチャラーで実施。60%で設定。



ラザウォーク甲斐双葉

CO₂を大幅に削減したお店

地域の皆様との調和、自然との共生を第一に考え、「あなたの暮らしと夢をちょっとお手伝い」をコンセプトにお客様の快適生活の実現を目指します。



●電気式ヒートポンプ空調システム

空気中の熱を効率よく汲み上げ、少量の電気エネルギーでたくさんの熱エネルギーを取り出せる効率的なシステム。エネルギー使用量を抑えCO₂排出量削減にも貢献できます。環境先進国ドイツでは、再生可能エネルギーに分類されています。



リーフウォーク稲沢

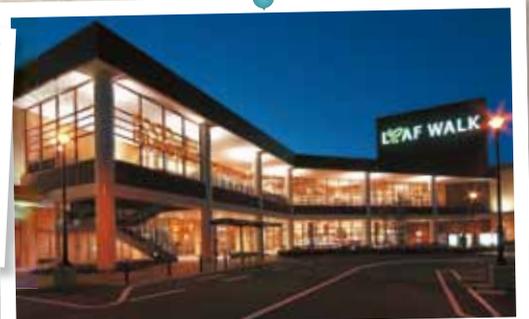
人と街にやさしいエコストア

ショッピングを楽しみながらエコに貢献する、そんなことができるお店を目指しています。



●ガスコージェネレーションシステム

都市ガスを用いて発電した際に発生する排熱を冷房や給湯に利用する省エネルギーシステム。CO₂削減に貢献しています。



店舗での取り組み

年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、すべてのお客様が快適にお買物できるよう、ユニーでは店内各所にさまざまな工夫をしています。
さらに、地域の方々と力を合わせて包装資材の削減や廃棄物の削減・分別などを実施し、環境保全に貢献しています。

環境に配慮した設備や工夫

“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミの減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進めるゴミの減量に関しては、お客様が利用しやすいように、リサイクルステーションのほか、各所に分別ゴミ箱を設置しています。

1 リサイクルステーション

牛乳パックをはじめ、アルミ缶・トレイ・ペットボトル・バイオマスプラスチック・卵パックなどお客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



2 分別ゴミ箱

店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別するためのゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。



3 リサイクル処理機

生ゴミは肥料、発泡スチロールはプラスチックチップなど、再生資源としてリサイクルを行っています。



4 環境配慮商品

原料・製造工程・使用時・容器包装廃棄時などの環境負荷を低減した環境配慮商品を開発・販売しています。



5 情報の開示

ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。



6 廃棄物計量システム

各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。



ユニバーサルデザイン

7 多目的トイレの設置

車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。



8 段差のない入り口

駐車場と店内の段差をなくし、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



9 車椅子専用駐車場

入り口の近くに、車椅子専用駐車場を設置しました。



10 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。





お子様連れの方への配慮



14 小さなお子様の遊び場

小さなお子様に安全に遊んでいただけるように、床や遊具にソフトな素材を使用した遊びのスペースを設けています。



15 ベビー休憩室(赤ちゃんルーム)

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室(赤ちゃんルーム)を設けました。



16 子供用トイレ設備の設置

男性用トイレにベビーシートを設置したり、子供専用トイレを設置しました。



子供専用
トイレ

ベビーシート

よりよく利用していただくためのサービス・工夫

17 アピタの美味しい水

飲料やお料理に使用していただける水を提供する浄水機を設置しました。



18 危険防止の工夫

危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。



11 優先エレベーター

混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。



12 介添えサービスの実施

1階各出入り口にインターホンを設置し、お呼び出しによって介添えサービスのご要望にお応えします。



13 AED(自動体外式除細動器)

不測の事態に備えてAEDを設置しました。



バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。



お客様の声 [人にやさしく、環境にやさしい店づくりのために]

よりよい店づくりのために、何よりもお客様のご意見を大切にしています。
 お客様の声に真摯に耳を傾け、速やかな回答と迅速な対応ができる仕組みを整え、
 商品やサービスの改善を進めています。

お客様の声のポスト

お客様の声ユニーを変えます

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスなどさまざまなご意見ご要望・お問い合わせ、またご指摘やお叱りの言葉が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗や商品、サービスなどに反映させていいただいています。ポストに入れていただいている「お客様の声」はユニーがこれからも地域のお客様と一緒によりよい生活を築いていくためのメッセージであり、羅針盤でもあります。1枚の「お客様の声」には、ポストには入っていないもっとたくさんの「お客様の声」が感じられます。これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努力していきます。



営業統括本部
 お客様サービス部長
 奥村 巧

| 内容 | 件数 | 構成比率(%) |
|------------|--------|---------|
| ご意見・ご指摘 | 1,821件 | 74.2 |
| お問い合わせ・ご要望 | 556件 | 22.6 |
| お褒め | 79件 | 3.2 |

※データは、2010年2月21日～2011年2月20日（ユニー本部 受付分）のものであります。



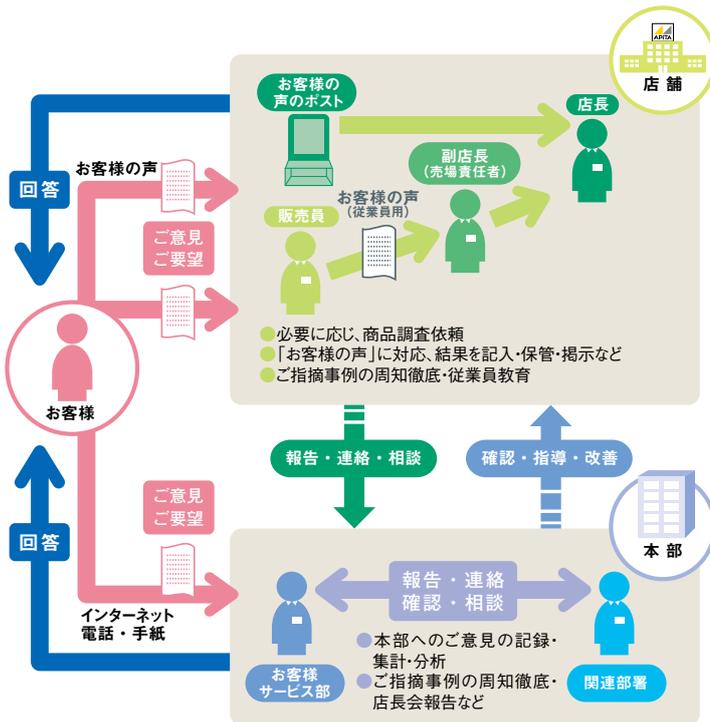
環境・社会貢献に対してのご提案・ご要望など貴重なご意見をいただいております。今後の取り組みの参考にさせていただいております。また、最近はお客様より心温まるお褒めの言葉をいただく機会が増えており、従業員一同のさらなる励みとしてありがたく思っています。

お客様の立場でさまざまな改善に努めています

お客様からお寄せいただきましたご意見・ご要望・ご質問などのうち、全体的な内容につきましては店舗から本部へ報告され、毎週取りまとめた上で本店内・各地区本部・関係部署へフィードバックされ、商品開発や品揃え、売場づくりやサービス改善に活かされています。こうしてお客様の声が全社の改善につながるのです。

40期より、お客様からいただくご指摘が減少傾向にあり、社内での接客対応に関する従業員教育と、お客様からいただくご意見ご要望などを従業員に開示し、苦情などの再発を防止する取り組みによる効果が表れていると思われまます。今後とも一層、従業員の意識を高め、苦情のさらなる削減に努めていきます。

お客様の声の流れ



ホームページからの環境情報発信

ユニーのホームページでは、環境保全についての取り組みを紹介しています。「エコショッピング」「環境レポート」「やさしくらしグアイアリー」などがご覧いただけます。また、メールマガジン「エコロNews」も作成しており、環境保全についての有益な情報を多くの皆様へ発信しています。

環境社会貢献部 ホームページアドレス

<http://www.uny.co.jp/corporate/torikumi/eco/index.html>



社会貢献・地域貢献

持続可能な社会は、地球環境保全そして「みんなが幸せに暮らしていくことができる社会」であると考え、ユニーは社会貢献活動を推進しています。

また、市民の皆様やNPO、自治体と一緒に地域の発展のために努め「地域のコミュニケーションセンター」としての役割を果たしていきます。

社会貢献活動

「エコとくお買い物券」プレゼント企画

アピタ・ピアゴでのお買い上げ金額に応じて、または家庭で不用になった衣料品の回収にご協力いただいたお客様に、「エコとくお買い物券」をプレゼントする企画を実施しました。「エコとくお買い物券」1枚につき3円を、ユニーから社団法人国土緑化機構の「緑の募金」、「郷土種子を活用したなごやの緑化及び生物多様性保全推進協議会」に寄付しました。植樹には、応募していただいたお客様や従業員も参加しました。



エコとくお買い物券

| 対象期間 | 募金先 | お買い物券利用枚数 | 寄付金額 |
|-----------|-----------------------------------|-----------|------------|
| 2010年 7月 | 郷土種子を活用したなごやの緑化 及び生物多様性保全推進協議会 | 670,622枚 | 2,011,866円 |
| 2010年 10月 | | 400,004枚 | 1,200,012円 |
| 2010年 12月 | 社団法人 国土緑化機構 | 555,436枚 | 1,666,308円 |
| 2011年 1月 | 社団法人 国土緑化機構 | 351,913枚 | 1,055,739円 |



なごや西の森づくり戸田川緑地



なごや東山の森・くらしの森植樹



植樹の様子



国土緑化機構

難民衣料救済（日本救援衣料センター）

ユニーはNPOや他の企業のボランティアと協働で、お客様の家庭で不用になった衣料を回収し、日本救援衣料センターを通してアジア・アフリカ・南米に送りました。また、この事業には日本通運などからも協力を得ました。

| 衣料品回収店舗 | 実施日 | 共催企業 | 回収量(t) | 参加者数(人) |
|----------|-------------|------------------|--------|---------|
| アピタ刈谷店 | 2010年10月23日 | デンソーボランティア支援センター | 25 | 291 |
| アピタ千代田橋店 | 2011年 5月25日 | 名古屋を明るくする会 | 15 | 500 |
| アピタ豊田元町店 | 2011年 5月28日 | トヨタ紡織ボランティア | 11 | 140 |
| アピタ安城南店 | 2011年 6月 4日 | デンソーボランティア支援センター | 11 | 306 |
| アピタ刈谷店 | 2011年 6月11日 | デンソーボランティア支援センター | 25 | 315 |



ボルヴィック 1L for 10Lプログラム

エアポートウォーク名古屋で「1L for 10Lプログラム」をキリンMCダノンウォーターズと共同で開催し、西アフリカのマリ共和国の子供達に井戸を贈りました。写真展や子供達のイベントを通して、地球環境と水問題について考える機会となりました。



「世界の医療団」写真展

「世界中の子供達を笑顔にしたい」と、先天的であったり、けがや病気、戦争などで傷を負って、顔に手術が必要な途上国の子供達に笑顔を贈る医療活動です。手術を終えて輝くような笑顔の子供達の写真を通して、平和を願う気持ちを伝え、手術費用のための募金活動を行いました。



アジアに車椅子を贈る 写真展

AJU自立の家が進める、車椅子を必要とするアジアの障がい者に車椅子を贈る活動に協賛、アクアウォーク、リーフウォーク、ヒルズウォークなどで写真展を開催。お客様や従業員に現状を知ってもらい、さらに車椅子を購入するための募金活動を実施しました。



盲導犬キャンペーン

日清ペットフードとユニーが協働で、愛犬家のお客様と一緒に、盲導犬を育てるためのキャンペーンを実施しました。キャンペーン期間に日清ペットフード製品のお買い上げ金額の1% 665,614円を、NPO法人全国盲導犬施設連合会に寄付しました。



エコキャップキャンペーン

名古屋市内店舗で読売新聞販売店と協働で、店舗にお客様が持ち寄ったペットボトルのキャップを新聞販売店の方が収集し、リサイクル資源として売却した収益金で感染症で苦しむミャンマーの子供達にワクチンを贈るキャンペーンを実施しました。



名古屋歴史発見 エコ・ウォーク

ユニー創業100周年を記念して、名古屋城周辺の歴史にちなんだ建物や街なかの自然発見、さらに市民の憩いの場である鶴舞公園のクリーン活動などを盛り込んだウォーキングイベントを開催しました。また、参加費は東日本大震災の募金に寄付しました。



電気自動車の充電スタンドを設置

アピタ福井大和田店に、福井県との協力で電気自動車用「急速充電器」を設置しました。地球温暖化防止の取り組みとして、お客様にEV（電気自動車）やPHV（プラグインハイブリッド車）を広め、お買い物しながら充電できるプラグスタンドの利用をアピールしました。



アピタ エコ博

「100年のありがとう そして100年後の地球を守るために」

ユニー創業100周年を記念して、エコ博を各地で開催しました。アピタの店舗を会場にして、地元NPOや企業、環境団体と一緒にエコ博を開催し、お客様にお買い物ついでに立ち寄って、エコについて楽しんで関心を持っていただける展示やイベントを行いました。



「環境にやさしいお買い物」の展示



日本モンキーセンターによるキッズゾーン



エコミュージカル「劇団シンデレラ」



NPO食の絆による食育イベント



地元ミュージシャンの演奏



環境紙芝居



エコ工作

募金活動

WFP (国連世界食糧計画)

ユニーは国連世界食糧計画(WFP)協会参加企業として、全従業員を対象に「ワンコイン募金活動」を実施しました。「ポケットの中のワンコインを飢えに苦しむ途上国の子供達に給食をプレゼントしよう。」と、社内会議の出席者や社員食堂の利用者に協力を呼びかけました。本社事務所食堂では毎月第1月曜日に、全店舗においては第1日曜・月曜日に募金活動を行い、2010年度は1,066,570円を寄付しました。



AJU車いすセンター

1982年より旧ユースストア店舗で続けられてきた「車椅子の無料貸し出し」を行うAJU車椅子センターへの募金活動を、2009年からはユニーが引き継ぎました。2010年度は150万円を寄付しました。介護保険制度が福祉機器貸与事業を始めたことで、車椅子貸し出しも福祉制度のはざまにいる人々が対象になってきています。これからも地域の車椅子を必要としている人々を応援していきます。



愛の1円玉募金

各店舗の店頭「愛の募金箱」を設置し、お客様・お取引先・従業員から善意の募金を募っています。集まった募金は、地域の福祉協議会や福祉団体へ寄贈しています。

| | |
|------|-------------|
| 中京地区 | 8,216,797円 |
| 関東地区 | 1,861,529円 |
| 山静地区 | 704,190円 |
| 北陸地区 | 864,203円 |
| 合計 | 11,646,719円 |

被災地への募金

| | |
|-------------------|------------|
| ニュージーランド地震被災者支援募金 | 9,559,404円 |
| WFP募金(従業員分) | 1,066,570円 |
| AJU自立の家(従業員分) | 1,500,000円 |

東日本大震災 被災地への救援活動

ユニーの役割は、お客様の生活を支えることです。2011年3月11日、東北地方を中心に巨大震災が発生し、同時に起こった津波とともに、未曾有の被害をもたらしました。ユニーの店舗も茨城県・埼玉県の一部で建物被害を受けましたが、幸いにもお客様や従業員にけがはありませんでした。しかし、東北・関東・静岡の一部の店舗では、店内の商品や内装が落ちたり、停電・ガス・水道などの不通など営業に支障のきたす状況ではありましたが、被害の大きかった3店舗を除き、翌日には全ての店舗で食品・日用品の販売を行いました。

緊急災害復興支援

地震発生後、直に対策本部が設置され、翌日3月12日・13日には、緊急支援物資としてミネラルウォーター・カップ麺・マスクなど3,500万円相当を福島県・宮城県・岩手県のそれぞれの災害対策本部の指定場所へ10tトラック12台で届けました。また緊急災害復興義援金として3月16日に、5,000万円を日本赤十字社へ寄付しました。3月12日から従業員や店頭でのお客様からの募金活動により、引き続き義援金を日本赤十字社を通して贈っています。 ※2011年6月30日までの累計、6億5,052万7,218円（ユニーグループ全体）



ユニーグループ災害救援物資の表示を付けたトラックで届けました

従業員の家庭から集めた救援物資お届け

被災者のなかでも一番弱者である、特別養護老人施設や認知症の方、身障者の方に、ユニーの従業員が家庭にあるタオル・バスタオル・毛布などの贈答品などを持ち寄り、ユニーの店舗から大人用紙おむつと一緒に送りました。

- 発送個数：348箱（タオル・バスタオル・毛布）、大人用紙おむつ（250箱）
- 支援先：特別養護老人ホーム「聖母の家」（社会福祉法人あけの星会）、社会福祉法人東北福祉会



各店舗から寄せられた救援物資は全ユニー労働組合の協力で仕分け、発送しました

被災地への救援物資の発送

弥富物流センターでは東日本大震災の被災地に向け、救援物資の発送を致しました。今回の東日本大震災はライフラインを直撃し、物流網が寸断され、車両の確保、緊急車両通行証の発行がスムーズに進まず大変な思いを致しましたが、改めてこういう状況下での物流の役割の重要性を再認識いたしました。



弥富物流センター 大山 尚代 マネージャー

また、ユニーの従業員一人ひとりの善意を、被災地の方々へ送り届けることができ、感謝状を頂きました。今後も、この経験を活かして物流業務を通じて社会貢献活動を行って参ります。

地域貢献

「認知症の人と家族」支援 お買い物セーフティネット

ユニーは認知症の方にもお買い物を楽しんでいただけるように、東海市・東海市社会福祉協議会・NPO「HEART TO HEART」に賛同し、「認知症買い物セーフティネット実行委員会」の取り組みに協力しています。「認知症」は病気です。その症状を知り、どのようなお手伝いができるのか、また介護されている家族の方へのフォローなど、従業員や保安警備担当にも教育を実施し、安心してお買い物ができるよう努めています。



店舗従業員に認知症を知り、対応について考える教育を実施



店長が警備や設備担当の関係会社の従業員に教育を実施



お客様に理解を促すために、パネル展を開催

全店一斉クリーンキャンペーン

ユニー創業100周年キャンペーンの一環として、全店の従業員が店舗や事業所周辺の道路や公園などの清掃活動を行いました。毎日の清掃活動に加え広い範囲を清掃することにより、お世話になっている地域への関心を深めることができました。



環境デーなごや2010で アビタ名古屋北店が表彰



大垣市環境市民フェスティバルで アクアウォークが表彰



各地の環境展に出展

●メッセナゴヤ



●モリコロパーク



●エコバル（名古屋環境学習センター）



●Mie子どもエコフェア



Re DESIGN PROJECT (リ デザイン プロジェクト)

「地球」「若者」「障がいのある方」とお買い物を通じてつながりあう

Re DESIGN PROJECTは、未利用資材を商品の素材に使い、デザイナーの卵であるデザイン学校の生徒たちがデザインしたものを、障がい者が就業訓練を行う授産施設で生産し、ユニーの店舗で販売するものです。

ユニーの本社のある愛知県尾張地方は、古くから繊維業が盛んで多くの織物製造業やアパレル産業、繊維商社があります。それらの企業の倉庫に眠っている、もしくはサンプルや少しの傷汚れて廃棄される「繊維素材」を提供していただきました。(2010年度協賛企業/13社)



集められた素材



プロジェクトの目的

- ①循環資源（未利用資材）の活用
- ②ファッション性を取り入れたエコ商品を作成
- ③授産施設とのコラボレーション（障がい者自立の応援）
- ④デザイナーの卵への「環境」「社会貢献」の啓発

コンテストでデザインを決定

名古屋市近隣のファッション専門学校6校（愛知文化服装専門学校、OKA学園トータルデザインアカデミー、中部ファッション専門学校、名古屋学芸大学、名古屋ファッション専門学校、名古屋モード学園）の学生を対象にコンテストを行い、商品化するものを選びました。各校で説明会を行い、「未利用資材を使う」「授産施設の技術レベルで生産できるもの」「商品として通用するもの」という条件と、素材を提供して学生達の参加を呼びかけました。ファッション性を取り入れたエコ商品は、チャリティーとして販売するのではなく、「私の好きなエコ商品」としてお客様に購入していただきました。



説明会の様子

Re DESIGN PROJECT コンテスト (2010)

作品テーマ「みんなにあったかいクリスマス…」

- 「みんなにあったかいクリスマス」を連想させる、未発表のオリジナル作品
- 授産施設で生産することができる「結ぶ」「縫う」「刺し子」の手法を使った作品
- 未利用資材を80%以上使用した作品
- 応募カテゴリ
 - ①雑貨…小さなぬいぐるみ・クッションなどインテリア用品、②バッグ…エコバッグ・巾着・箸袋・お弁当袋など、③クリスマス用オーナメント
- 募集期間：平成22年4月15日～6月20日

デザイン選考

ユニーの住関本部商品企画開発部・環境社会貢献部、大森授産所のメンバーが次のような観点で審査しました。

環境に配慮しているか

商品化が可能か

消費者にとって魅力ある商品か

授産所が生産に関われるか



選考会場



応募総数370点

2010リ デザイン プロジェクト デザイン入賞者発表会および表彰式

稲沢市のリーフワーク稲沢で、素材提供に協力いただいた企業・団体や参加校、ユニーの関係者などを招き、入賞作品の発表と表彰式を開催しました。



表彰式



入賞者



作品展示



入賞作品の製品化

商品企画開発部のメンバーが、コンテスト入賞作品から商品化して販売するものを選び、使い勝手などを考慮して改良し製品化しました。また、ユニーの品質基準をクリアするために生産段階での指導、品質表示のために検査機関での検査を行いました。

バッグの改良



住関本部
商品企画開発部
菅野誠一

レベルの高い応募作品が多く、入賞作品を選ぶのに大変苦労いたしました。その中でも、入選作品の「エコバッグ」はデザイン性・機能性に優れ、また環境配慮といった視点も考慮し、選定をいたしました。商品化にあつては次のような課題があり、一部仕様変更をいたしました。①ポーチ部が底にくるため強度が弱く、重たいものが入れられない②ファスナー部の縫製の難易度③入賞作の生地が大量に手配できなかった。以上のような点で若干変更にはなりましたが、販売時は大変好評で人気商品のひとつでした。



受賞作品

販売商品

授産施設に生産をお願い

授産所に通う障がい者の方に仕事をする機会を創り出し、公正な対価を支払うことで、自らの力で暮らしを向上させ、自立するよう支援します。素材の提供や製品の販売先が決まっているので、収入を確保することができます。商品のデザインや販売などを企業が協力することにより商品価値や品質が向上し、販売が拡大できます。

また、このプロジェクトがメディアや店舗で紹介されたことにより、社会において授産所に対する理解や関心が高まりました。(参加授産施設/社会福祉法人大森福祉会 大森授産所、社会福祉法人名古屋身体障害者福祉連合会、身体障害者通所授産施設 名身連第一ワークス)



作業風景

メディアに取り上げられました



中日新聞

織研新聞

日経デザイン

「授産所」とはどんなところ?

授産所とは、障がいをお持ちの方が、働くなどいろいろな活動を通して社会参加し、自立を目指して訓練するところです。名古屋市では障がい者手帳を持っている方が利用しています。仕事は、企業からの下請け作業を主とし、自主製品を作って販売もしています。ここからの収入だけで生活することはなかなか難しく、より多くの収入が得られる仕事を創り出すことが課題です。



大森授産所主任
柴田浩二さん

各地にあるアピタ店舗にて販売

入賞作品を製品化し、授産施設で生産する期間を考慮し、販売をクリスマスシーズンにしました。11月21日から12月25日までの期間、各地区の販売力のある大型店舗の専用売り場で販売しました。

販売店舗：

- アピタ長津田店 (神奈川県)
- アピタ福井大和田店 (福井県)
- アピタ千代田橋店 (愛知県)
- ピオニウォーク東松山 (埼玉県)
- アピタ富山東店 (富山県)
- アクアウォーク大垣 (岐阜県)
- アピタウォーク浜北 (静岡県)
- エアポートウォーク名古屋 (愛知県)
- アピタ松任店 (石川県)
- リーフウォーク稲沢 (愛知県)



アピタ千代田橋店

●プロジェクトの運営は、プランニングオフィス・ラグーンの協力で行いました

Re DESIGN PROJECT を運営するにあたり

Re (再) の心を大切にデザイン学生の皆様、繊維企業&組合、授産施設の皆様の共創から生まれる「人と自然にやさしい商品」作りが3年目をむかえ、多くのアピタ店頭で販売されました。このプロジェクトはこれまでの生産・販売・消費といった、企業生産社と消費者の関係から、購入することでRe (再) の活動に参加できる、生活者参加型ブランドや商品としての新しい可能性を示唆したものです。



プランニングオフィス・ラグーン 代表取締役 浅野健一さん

AJU自立の家「ピア名古屋ワイン」へ売り場を提供し支援

ピア名古屋は、知的障がい者の授産施設です。岐阜県多治見市の修道院で栽培したブドウからワインを醸造し、販売することで自立を目指しています。また、世界の修道院で自家醸造したワインを直接仕入れて販売も行っています。ユニーは多治見市近隣の販売力のある大型店舗で、定番商品として「ピア名古屋ワイン」を販売し、ピア名古屋を応援しています。



ピア名古屋のメンバー



エコ博会場での販売



商品

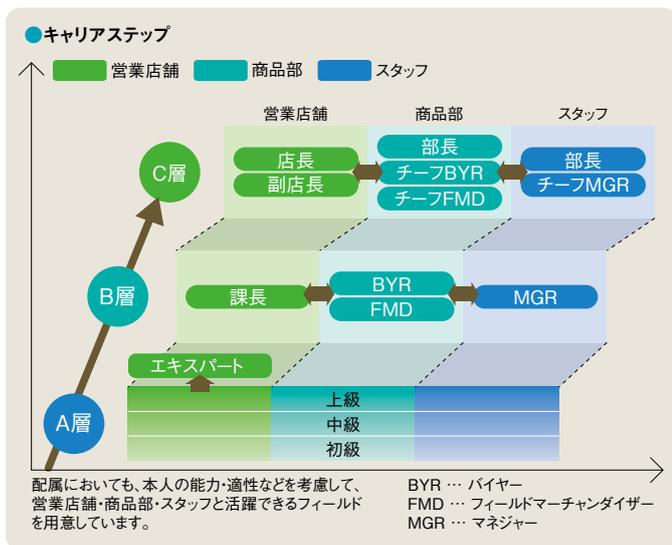
働きやすい職場環境づくり

ユニーでは従業員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考動」する人材になることを目指しています。流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、広く社会に貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、従業員一人ひとりを強力にバックアップしています。

キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、社会の成長につながっています。そこでユニーでは、配属においても本人の希望を考慮しています。毎年、全社員を対象に自己申告を実施し、今後のキャリアについて本人の希望を確認しています。配属希望の部署やそのために取り組んでいる自己啓発などを調査することで、その後の配属に活かしています。

営業店舗で店長を目指して仕事をされている方、商品部でバイヤーとして世界中に商品の買いつけに行く方、スタッフ部署で営業の企画を立案している方など、各人の能力・適性により活躍できるフィールドはたくさん用意されています。



充実の教育体系

キャリアに応じて必要な教育研修を実施。自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。

● 研修

新入社員から管理職まで各職層別に研修を実施。2010年度の研修参加者数は述べ2,643名になります。



● 従業員キャリアアップ

従業員のキャリアアップを手伝うため、128講座におよぶ通信教育講座を案内。会社推薦講座受講者には会社からの補助があります。2010年度は418名が受講しました。



● サービス介助士資格

高齢者の方や障がいをもつ方にも安心して買い物に来ていただけるよう、店舗の店長や副店長などの管理職を中心にサービス介助士資格の取得を促しています。現在までに、969名が取得しています。



● 技能研修

特別勤務者（パートタイム）の方には、生鮮部門担当者を中心に商品加工技術のある方に技能給を、福祉用具専門相談員やグリーンアドバイザー、自転車安全整備士、ホームヘルパーなどの資格を取得し、仕事に活かしている方にライセンス給を支給しています。



障がい者雇用

ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいを持つ人も活き活きと働ける職場環境をつくるため、障がい者雇用に取り組んでいます。毎年、養護学校や施設から職場体験の受け入れも実施しています。

| 障害者雇用率 | |
|--------|-------|
| 2008年 | 2.03% |
| 2009年 | 2.12% |
| 2010年 | 1.92% |

ワークライフバランスへの取り組み

● 半日年休制度

付与された年次有給休暇のうち6日間を半日に分割して年間12回取得可能。年次有給休暇をより取得しやすくするため、2006年より導入しました。

● 配偶者出産休暇

配偶者が出産のとき、出産日から2週間以内に有給の休暇を2日取得可能。2010年より導入しました。

● 65歳までの再雇用制度

定年を迎えた従業員がその後の生活の安定をはかるため、再雇用されることを希望した場合、65歳までを上限とし再雇用し、長年培った知識・経験・専門能力・技能を活用できるようにしています。

● 自社商品割引購買制度

自社商品を割引で購入可能。同居家族も同条件で利用できる「家族証」を発行しています。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録

労働者が男女ともに仕事と家庭を両立させながら働くことができる職場環境づくりに取り組んでいる企業として認められ、2003年に愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録しました。



次世代法に基づく基準適合一般事業主認定企業

仕事と子育ての両立を図るために必要な、雇用環境の整備などを進めるための「一般事業主行動計画」を策定し、基準に適合した一般事業主として2008年に認定されました。



働きやすい職場環境づくり

● ユニーグループ

総合福祉センター
 総社による共同事業です。会社・労働組合いずれにも属さない単独の組織として、ユニーグループ全ての企業の従業員が同条件で加入できる共済会制度を運営し、祝金や見舞金、弔慰金等の慶弔活動、各種補助、セミナー、契約施設の斡旋、OB・OG会活動等を行っています。

● ライフデザインセミナー

40歳、50歳、60歳と人生の節目となる年代を対象としたセミナーを開催し、生涯生活設計の基盤をつくるための意識づくり、体系づくりを図っています。



● 健康セミナー、健康ウォーキング

近年関心の高い「健康」に特化した、夫婦で参加できるセミナーやウォーキング大会を開催しています。



● レクリエーション活動

従業員同士の親睦や交流を促し、職場の活性化を目的とした店舗行楽や趣味開発のための文化体験を取り込んだバス旅行を実施しています。



● 保険・貯蓄・年金制度

従業員の生涯生活設計の一助として、年1回、集中募集を行い、財形貯蓄や団体保険（死亡・医療・所得補償保険）、独自の年金制度の加入促進を図っています。



環境学習

ユニーはエコ・ファースト企業として、地球環境保全と地域社会貢献のために従業員や関係者に環境教育を行っています。それぞれの果たすべき役割を認識し、環境保全・社会貢献の実践に必要な知識や技術を習得させるための講習や実習を行っています。さらに、ユニーと一緒に活動していただく消費者・行政・取引先や同業他社の方々の店舗見学や講習も行っています。

従業員教育

●ISO14001集合教育

環境マネジメントシステムISO14001の適正な運用ができるよう、本社従業員に教育を行っています。



●関係会社従業員教育

ユニーの従業員以外の派遣社員や社内で働いている人々にも、ユニーの環境保全・社会貢献活動を理解し協力してもらうよう教育を実施しています。



●新入社員教育

ユニーの環境方針の理解や、店舗・事業者での環境保全活動について、新入社員オリエンテーションで教育を行っています。

●防災訓練

「緊急事態への対応」として、防災訓練を定期的実施しています。火災・地震・台風などの災害に対しては、行動マニュアルに従い、店舗・事業所ごとに訓練を行い不測の事態に備えています。店舗にはたくさんのお客様がいらっしゃるの、避難誘導や防災施設の点検も定期的に行っています。



●環境関連事業者連絡会

ユニーと取引のある一般廃棄物運搬事業者や産業廃棄物処理事業者などの環境関連事業者を集め、年2回の連絡会を開催しています。環境問題全般や廃棄物に関する講演会、先進的な取り組みをしている環境施設の見学会などを通し、法律遵守やリサイクル推進をユニーと一緒に取り組んでもらうことが目的です。



●店舗見学の受け入れ

店舗の環境施設や環境活動の見学に、消費者団体・行政・同業他社の方を受け入れています。特に食品リサイクルループの仕組みやエコ野菜販売などについての見学が多いようです。



●テナント・その他の従業員教育

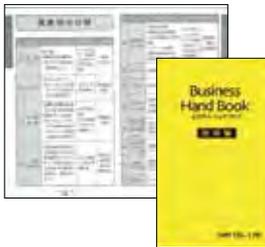
出店しているテナントや店舗で仕事をしている人々に、環境保全活動を理解し協力してもらうよう教育を実施しています。特に廃棄物の分別・計量システムなど、ユニー独自のシステムについては必修としています。

環境コミュニケーションツール

社内コミュニケーション

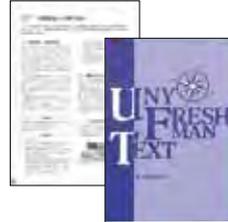
●従業員教育マニュアル

社内規定をまとめたポケットガイドに環境のページを設け、廃棄物分別などのマニュアルを記載しています。



●新入社員テキスト

新入社員に対して基礎教育に使用するテキストに、環境の基本的な事項や遵守すべき法令などを記載しています。



●社内報での情報の共有化

社内報に「環境」「社会貢献」のスペースを設け、会社や各店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員が共有し、従業員の環境意識を高めています。



社外コミュニケーション

●ホームページ

ユニーのホームページ「環境社会貢献」には、活動の最新情報や活動報告、環境配慮商品などの情報を掲げています。



●環境壁新聞

ユニーの店内には環境問題を紹介した「やさしくらダイアリー」を掲示しています。ホームページでも見ることができます。



●DVDでの啓発

ユニーの環境活動を「食品リサイクル」「容器のリサイクル」「生物多様性」などのDVDにして、店内やイベントで使い、理解と協力を促しています。





「未来の子供達に美しい自然を残したい」

ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。



ユニー株式会社 環境社会貢献部
 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
 TEL.0587-24-8093 FAX.0587-24-8034
<http://www.uny.co.jp>

チャレンジ

未来が変わる。
 日本が変わる。



この報告書の印刷・製本工程で
 使用した電力量(1000kWh)はグ
 リーン電力でまかなわれています。

この印刷物に使用している用紙は、森を元
 にするための間伐と間伐材の有効活用に役
 立ちます。